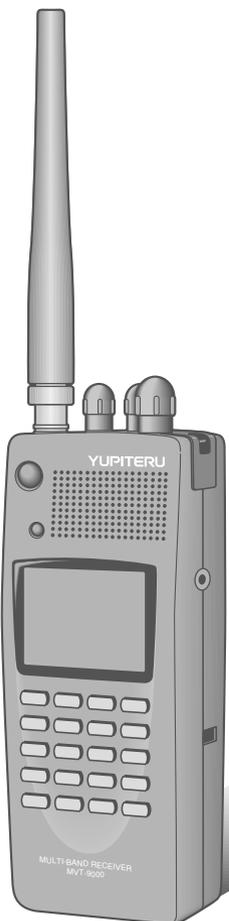


マルチバンドレシーバー
MVT-9000 MKII
取扱説明書



このたびは、ユピテルのマルチバンドレシーバーをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

⚠ 注意

ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
なお、お読みになられたあとも、大切に保管してください。

本書の読みかた

MVT-9000をお使いになる前に、必ずお読みください。

はじめに
安全上のご注意や操作の前に準備しておくことが書かれています。

はじめてマルチバンドレシーバーをお使いになるかたは、まずここを習得してください。

VFO モード
MVT-9000の基本的な使いかたを説明しています。

すでにマルチバンドレシーバーを使いこなしているかたは、ここからお読みになっても操作できます。

サーチ
無線局を探して、電波を見つけると自動的に受信していく方法が書かれています。

メモリーとスキャン

チャンネルメモリーへの登録方法と、これらのチャンネルメモリーを効率よく呼び出すスキャンについて書かれています。

その他の機能

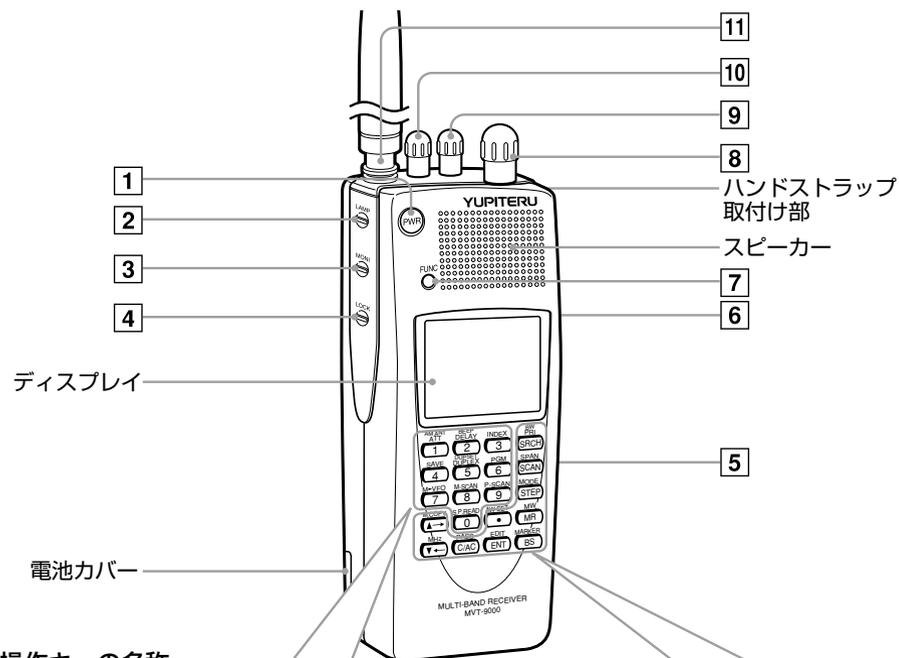
覚えておくと便利な機能や、特殊な電波を受信するための設定、チャンネルタイトルの編集方法などが書かれています。MVT-9000の豊富な機能を使いこなすためにお役立てください。

知っておきたいこと

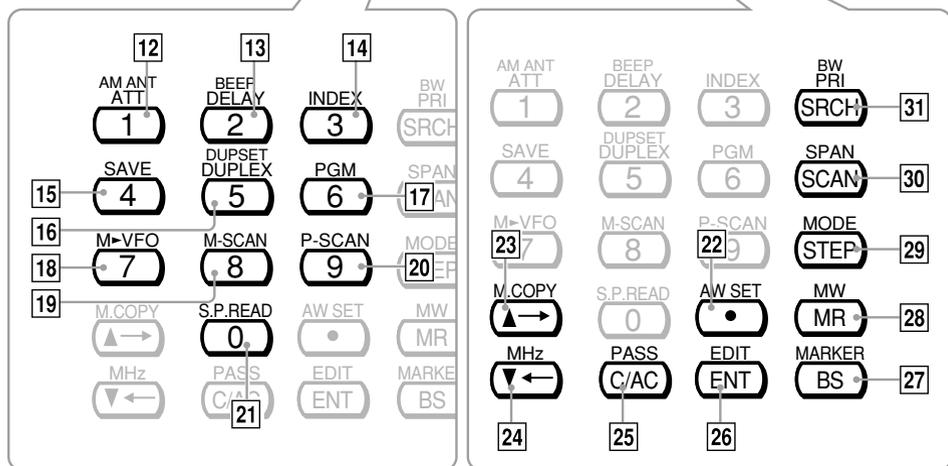
「主な無線局の受信モードと周波数ステップ」や「操作早見表」などがまとめられています。また、故障かな？と思ったときにもご覧ください。

各部の名称

本書をお読みになるときには、このページを開いてお読みください。



操作キーの名称



特長

531kHz~2039MHzをすべての受信モードでフルカバー

本機の受信範囲は531kHz~2039MHz(受信周波数範囲)の広帯域をW-FM、FM、AM、N-AM、LSB、USB、CWの受信モードでフルカバーします。
※表示周波数範囲は100kHz~2039MHzです。

豊富な周波数ステップ

選択できる周波数ステップは50Hzから125kHzの18種類。広範囲な周波数に対応することができます。

ダイレクトアクセス付きバンドスコープ

受信周波数とともに周囲の周波数の電波状態をワイドに表示します。また、マーカ機能を使うと、バンドスコープに表示されている他周波数を指定してワンタッチで受信することができます。

面倒な設定がいらぬプリセット機能

受信したい周波数帯に合った周波数ステップと受信モードなどがあらかじめ設定されます。簡単操作で、効率的な受信ができます。

デュプレックス受信機能

決められた周波数で相互に交信している無線局を受信する場合、その2つの周波数を切り換えながら、スムーズに受信できます。

20バンドサーチ機能

お好みの周波数帯を最大20バンドまで登録することができます。FM放送や航空無線、パーソナル無線など主要10バンドのデータはあらかじめ登録されていますので、周波数を調べずに簡単に受信できます。

1000チャンネルメモリー機能

受信したいチャンネルを最大1000チャンネルまで登録できる大容量の1000チャンネルメモリー機能。さらに、そのチャンネルメモリーを効率良く受信するメモリスキャンや、バンクスキャン、モードスキャン、プログラムスキャンなど、多彩なスキャン機能を備えています。

10タイムス機能

ダイヤルつまみで選局するときの周波数ステップを一時的に10倍にして、すばやく次の周波数を選ぶことができます。

AM放送用バーアンテナ内蔵

中波帯(AM放送帯)受信用にバーアンテナを内蔵。アンテナの使用/未使用を切り換えることもできます。

どこでも使える3電源方式

豊富な付属品により、ニッカド電池での携帯使用やACアダプターによる家庭電源使用、シガープラグ(12Vシガーライターソケット使用)による車載使用ができます。

目次

<ul style="list-style-type: none"> 特長 4 安全上のご注意 6 使用上のご注意 9 各部の名称とはたらき 10 付属品の確認と取り付け 14 電源について 15 		はじめに
	<ul style="list-style-type: none"> 準備 18 VFOモードで受信する 19 選局する 20 バンドスコープ機能 23 マーカ機能(マーカモード) ... 24 デュプレックス受信 25 秘話交信を聞く 26 	VFOモード
<ul style="list-style-type: none"> VFOサーチモード 28 バンドサーチモード 29 セレクトバンドサーチモード ... 30 サーチパスメモリー 31 		サーチ
	<ul style="list-style-type: none"> チャンネルメモリー 34 スキャン 38 モードスキャン 41 プログラムスキャン 42 プライオリティ 43 	メモリーとスキャン
<ul style="list-style-type: none"> サーチやスキャンの付加機能 ... 46 受信のためのミニ知識 48 特殊な電波を受信する 49 タイトル編集 54 便利な機能 56 リセット機能について 59 初期設定について 60 		その他の機能
	<ul style="list-style-type: none"> 故障かな?と思ったら 62 アフターサービスについて 63 仕様 64 主な無線局の受信モードと周波数ステップ .. 65 操作早見表 66 	知っておきたいこと

ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。ここに記載された注意事項は、製品を正しくお使いいただき、使用するかたへの危害や損害を未然に防止するためのものです。安全に関する重大な内容ですので、必ず守ってください。また、注意事項は危害や損害の大きさを明確にするために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。

-  **警告**：警告を無視した取り扱いをすると、使用者が死亡や重傷を負う可能性があります。
-  **注意**：注意を無視した取り扱いをすると、使用者が傷害や物的損害をこうむる可能性があります。

絵表示について

-   記号は注意を促す内容であることを告げるものです。
-   記号は禁止の行為であることを告げるものです。
-   記号は行為を強制したり、指示を告げるものです。

警告

-  水をつけたり、水をかけない。また、ぬれた手で操作しない
火災や感電、故障の原因となります。
-  風呂などで使用しない。また、ぬれた手で電源を抜き差ししない
感電の原因となります。
-  表示された電源電圧以外では使用しない
火災や感電、故障の原因となります。
-  電源コードを傷つけたり、無理に曲げたり、加工しない。また、電源コードが傷んだら使用しない
感電やショートによる発火の原因となります。
-  電源に接続する場合に分岐やタコ足配線をしない
異常過熱や発火、故障の原因となります。また、カー電源に接続する場合は、極性にご注意ください。本機はマイナスアース車専用です。
-  ACアダプターやシガープラグの差し込みは、確実に行う
接触不良を起こして、火災の原因となります。
-  ACアダプターやシガープラグの差し込み部分のホコリはよくふく
接触不良を起こして、火災の原因となります。
-  ACアダプターやシガープラグは付属のもの以外は使用しない
火災や感電、故障の原因となります。
-  ニッカド電池を充電するときは、過充電しない
異常過熱や発火、故障の原因となります。長時間の充電はしないでください。
-  乾電池をセットしているときは、外部電源で使用しない
乾電池(アルカリ乾電池、マンガン乾電池)が充電され、破裂や液漏れにより、火災やケガ、周囲を汚損する原因となります。

警告

-  穴やすき間にピンや針金などの金属を入れない
火災や感電、故障の原因となります。
-  機器本体および付属品を改造しない
火災や感電、故障の原因となります。
-  万一、キャビネットを破損した場合は、すぐにACアダプターやシガープラグを抜く
そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。
-  雷が鳴りだしたら使用を中止する
感電の原因となります。
-  サービスマン以外の人は、絶対に機器本体および付属品を分解したり、修理しない
感電や故障の原因となります。内部の点検や調整、修理は販売店にご依頼ください。
-  運転中は絶対に操作しない
わき見運転は重大事故の原因となります。
-  自動車で使用する場合、運転の妨げにならない場所、また、自動車の機能(ブレーキ、ハンドル等)の妨げにならない場所に取り付ける
誤った取り付けは、交通事故の原因となります。
-  自動車で使用する場合、助手席エアバックの近くに取り付けたり、配線をしない
万一のとき、動作したエアバックで本体が飛ばされ、事故やケガの原因となります。また、電源コードが妨げとなり、エアバックが正常に動作しないことがあります。
-  煙が出ている、変な臭いがするなど、異常な状態のまま使用しない
発火の恐れがあります。すぐにACアダプターやシガープラグを抜いて、販売店に修理をご依頼ください。

注意

-  電源コードを熱機具に近づけない
コードの被覆が溶けて、火災や感電の原因となります。
-  不安定な場所や振動、衝撃の多い場所に置かない
落ちたり、倒れたりして、ケガや故障の原因となります。
-  電源を抜くときは、電源コードを引っ張らない
コードに傷がついて、感電やショートによる発火の原因となります。
-  移動させるときは、ACアダプターやシガープラグを外す
コードに傷がつき、火災や感電の原因となります。
-  電池を入れるときは、極性に注意し、指示通り入れる
間違えて入れると、電池の破裂や液漏れにより、火災やケガ、周囲を汚損する原因となります。
-  指定以外の電池は使用しない、また、古い電池を混ぜて使用しない
電池の破裂や液漏れにより、火災やケガ、周囲を汚損する原因となります。
-  使用済みの電池を火中に投げ入れない
爆発して火災や火傷の原因となります。
-  お手入れの際は、ACアダプターやシガープラグを外す
感電の原因となります。
-  長時間ご使用にならないときは、ACアダプターやシガープラグを外す
絶縁劣化による感電や、漏電火災の原因となります。
-  長時間ご使用にならないときは、中の電池を抜く
液漏れにより、周囲を汚損する原因となります。
-  イヤホンやヘッドセットで使用するときは、音量に注意する
突然の大きな音で耳を傷める恐れがあります。
-  旅客用飛行機の中では使用しない
飛行機の計器に異常を与える可能性があります。
-  病院の中では使用しない
医療用電気機器に電波による影響を与える可能性があります。医療機器の近くでは電源を切り、絶対に使用しないでください。

取り扱いについて

■本機が汚れたときは、柔らかい布などでふいてください。ポリエステルなどの静電気が起きやすいもの、ベンジンやシンナー、化学ぞうきん、洗剤は使用しないでください。



■本機は広帯域受信機ですので、受信機内部の発振(スプリアス)により受信できなかったり、雑音を発生する周波数があります。また、テレビやラジオなどの近くで使用した場合には、影響を与えることがあります。

■他の無線機やテレビ、ラジオ、パソコン等のデジタル機器の近く、車内などでは雑音が入る場合があります。

■次のような場所での使用や放置はしないでください。

- ・直射日光の当たる場所や暖房器具の近く、あるいは炎天下の自動車内など温度の高くなる場所
- ・湿度の高い場所や風通しの悪い場所
- ・ホコリや油煙の多い場所
- ・非常に温度が低い場所

電源について

■常時外部電源(家庭用電源、カー電源)で使用する場合は、中に電池をセットしないでください。

■ニッカド電池をセットして外部電源を接続すると、充電しながら使用できます。電源の入/切にかかわらず、充電時間の目安は、約15時間です。

■ニッカド電池の満充電後の連続使用時間は約4.5時間(バンドスコープ非表示、音量中位の時)です。(連続使用時間は受信状態により変化します)

無線局について

■一部の機密を要する無線では、音声として聴くことのできない通信方式(デジタル通信など)が採用されています。

メモリーについて

■本体のPWRボタン[1]で電源を切ると、その状態がメモリーされます。本体の電源を入れたまま外部電源の抜き差しや、電池の出し入れをすると、最後の状態はメモリーされず、次に電源を入れたときにその前の状態で始まります。カー電源に接続している場合、使用しないときは、必ず本体の電源を切ってください。

アンテナについて

■受信状況は、ご使用になる場所やアンテナによって変化します。

■付属のフレキシブルアンテナ以外に市販のアマチュア無線用のアンテナなども使用することができますが、その際は、目的とする周波数に合ったアンテナをご用意ください。ただし、増幅回路付きの外部アンテナは使用しないでください。故障の原因となります。

■本機のANT端子はBNC型、インピーダンスは50Ωです。

■ご使用になる場所やアンテナによってはテレビ放送などの強い電波の影響を受けて受信できないことがあります。

受信内容について

■お客様が受信した内容は、電波法上、第三者に漏らしたり、行動に移したりすることが禁止されています。

ご使用済みの不要となったニッカド電池は、貴重な資源を守るために、廃棄しないでニッカド電池リサイクル協力店にお持ちください。



Ni-Cd

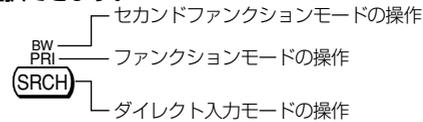
万一、異常や不具合が起きたときは、すぐに使用を中止し、お買い上げの販売店、または最寄りの弊社営業所・サービス部にご相談ください。

本体

- 1 PWRボタン(電源)**
電源の入/切ができます。
- 2 LAMPボタン(ランプ)**
ディスプレイとキーボードを明るくさせることができます。
- 3 MONIボタン(モニター)**
受信信号が弱く、音声途切れるときなどに聞き取りやすくします。
- 4 LOCKボタン(ロック)**
キー操作ができないようにして、誤動作を防止します。1度押したときと、1秒以上押し続けたときではロックされるキーが異なります。
- 5 DC12Vジャック(外部電源)**
付属のACアダプターやシガープラグを接続します。また、ニッカド電池をセットしている場合は、ニッカド電池の充電ができます。
- 6 EAR端子(外部スピーカー)**
外部スピーカーやイヤホンを接続します。この端子に接続すると、本体のスピーカーからの音は出なくなります。
- 7 FUNCボタン(ファンクション)**
キーのはたらきを切り換えることができます。1度押したときと、1秒以上押し続けたときでは、はたらきが異なります。
- 8 DIALツマミ(チューニング)**
周波数やチャンネルメモリーの移動、受信モードの切り換え、周波数ステップの切り換えができます。
- 9 VOLツマミ(音量調節)**
右に回すと音量が大きくなり、左に回すと音量が小さくなります。
- 10 SQLツマミ(スケルチ調整)**
無信号時の“ザー”という雑音を消すことができます。受信信号を効率よく受信するために使います。
- 11 ANT端子(アンテナ接続)**
アンテナを接続します。

キーボード

操作キーは、直接キーを押したときと、FUNCボタン[7]との組み合わせで計3通りのはたらきを選択できます。



ダイレクト入力モード

直接キーを押したとき

操作キー	機能
12	数字キー (1)
13	数字キー (2)
14	数字キー (3)
15	数字キー (4)
16	数字キー (5)
17	数字キー (6)
18	数字キー (7)
19	数字キー (8)
20	数字キー (9)
21	数字キー (0)
22	小数点キー (.)
23	アップキー
24	ダウンキー
25	クリアキー
26	エンターキー
27	バンドスコープキー
28	メモリーリードキー
29	ステップキー
30	スキャンキー
31	サーチキー

ファンクションモード

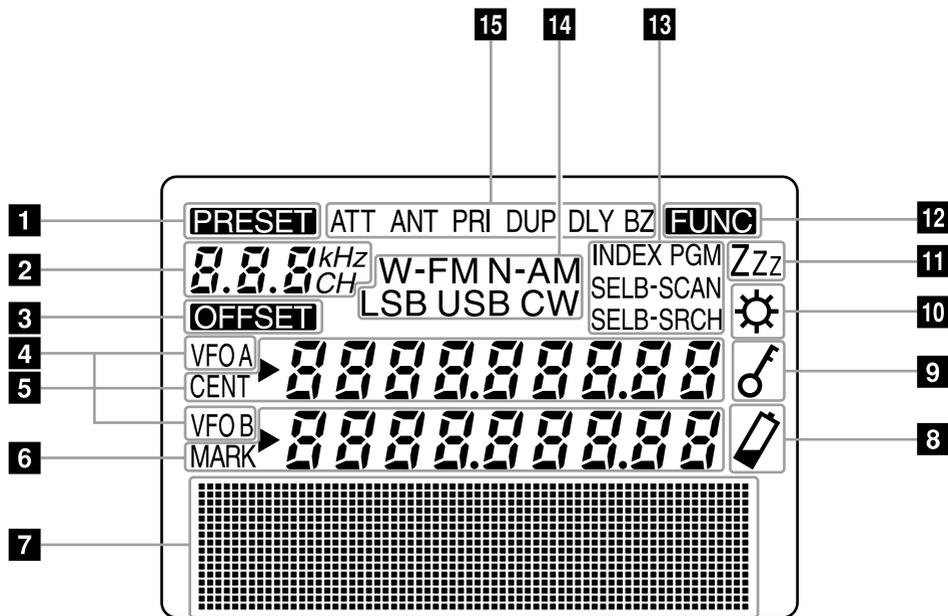
FUNCボタン[7]を1度押したあとにキーを押す([FUNC]が点灯)

操作キー	機能
7 → 12	ATTEN (1) アッテネーターキー
7 → 13	BEEP DELAY (2) デイレイキー
7 → 14	INDEX (3) インデックスキー
7 → 15	SAVE (4) セーブキー
7 → 16	DUPSET DUPLEX (5) デュプレックスキー
7 → 17	PGM (6) プログラムキー
7 → 18	M-VFO (7) メモリーVFOキー
7 → 19	M-SCAN (8) モードスキャンキー
7 → 20	P-SCAN (9) プログラムスキャンキー
7 → 21	S.P.READ (0) サーチパスリードキー
7 → 22	AW SET (点滅) オートライトキー
7 → 23	M.COPY (点滅) メモリーコピーキー
7 → 24	MHz (点滅) MHzキー
7 → 25	PASS (C/AC) パスキー
7 → 26	EDIT (ENT) エディットキー
7 → 27	MARKER (BS) マーカーキー
7 → 28	MW (MR) メモリーライトキー
7 → 29	MODE (STEP) モードキー
7 → 30	SPAN (SCAN) スパンキー
7 → 31	BW PRI (SRCH) プライオリティキー

セカンドファンクションモード
FUNCボタン[7]を1秒以上押し続けたあとにキーを押す([FUNC]が点滅)

操作キー	機能
7 → 12 (1秒以上)	AM ANT (1) AMアンテナキー
7 → 13 (1秒以上)	BEEP DELAY (2) ビープキー
7 → 16 (1秒以上)	DUPSET DUPLEX (5) デュプレックスセットキー
7 → 31 (1秒以上)	BW PRI (SRCH) バンドライトキー

ディスプレイ



■周波数表示の見かた



1 プリセット表示

プリセットが設定されているときに点灯します。

2 周波数ステップ/チャンネルメモリー表示部

サーチやVFOモード中に周波数ステップを表示します。

スキャン中にチャンネルナンバーを表示します。また、プライオリティチャンネルは2桁目に[P]が表示されます。

3 オフセット表示

オフセットが設定されているときに点灯します。

4 VFO A/B表示

VFOモード中など、マーカモード以外のときに[VFO A]、[VFO B]が点灯します。

5 周波数表示部(上)

選んだ周波数や入力中の数値を表示し、受信中は[▶]が点灯します。また、マーカモード中はセンター周波数を表示し、[CENT]が点灯します。

6 周波数表示部(下)

選んだ周波数や入力中の数値を表示し、受信中は[▶]が点灯します。また、マーカモード中はマーカ周波数を表示し、[MARK]が点灯します。

7 ドットマトリックス表示部

Sメーターや、バンドスコープ、選択されたバンド名、電池の残量などを表示します。

8 ローバッテリー表示

電池が消耗し、充電や電池の交換が必要なときに点灯します。

9 ロック表示

全ロックや部分ロックにすると点灯します。

10 ランプ表示

照明用ランプの設定状態によって、常時点灯のときは点滅し、操作ごとの5秒間点灯のときは点灯します。

11 セーブ表示

バッテリーセーブモードが設定されているときに点灯します。

12 ファンクション表示

ファンクションモードにすると点灯します。セカンドファンクションモードにすると点滅します。

13 動作モード表示

サーチやスキャンなどの動作状態を表示します。

14 受信モード表示

選択している受信モード(電波型式)を表示します。

15 設定状態表示部

FUNCボタンによって設定できる機能の設定状態を表示します。

付属品の確認と取り付け

電源について

次ページに続く▶

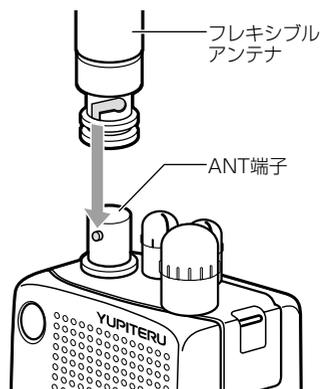
付属品リスト

ご使用前に、付属品をご確認ください。

- フレキシブルアンテナ (1)
- ACアダプター (1)
- シガープラグ (1)
- ニッカド電池 (4)
- ハンドストラップ (1)
- ベルトクリップ (1)
- ベルトクリップ取付けネジ (2)
- イヤホン (1)
- 取扱説明書 (1)
- 保証書 (1)

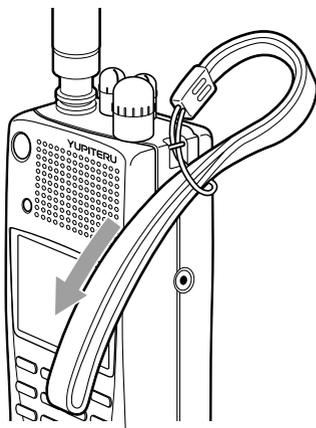
アンテナの取り付けかた

付属のフレキシブルアンテナの溝と、ANT端子の凸部を合わせて差し込み、軽い手応えがあるまで時計方向に回します。



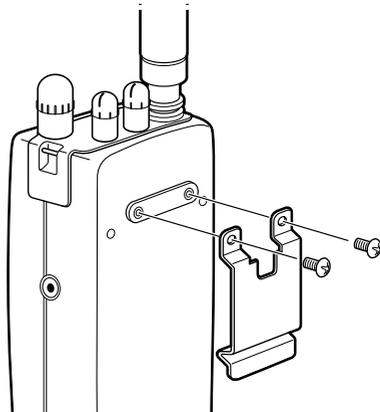
ハンドストラップの取り付けかた

ハンドストラップ取付け部に、図のように取り付けます。



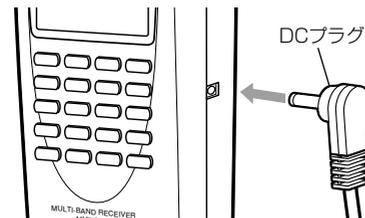
ベルトクリップの取り付けかた

ベルトクリップ取付けネジで、図のように取り付けます。

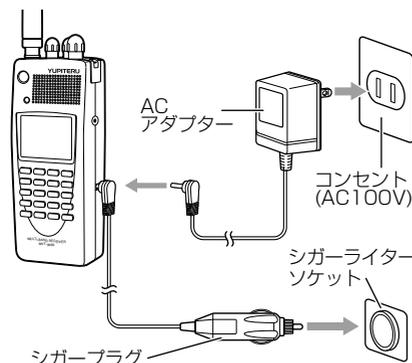


外部電源で使う

1 DC12Vジャック⑤にACアダプターやシガープラグのDCプラグを接続する
ACアダプターやシガープラグを接続するときは、必ず電源を切った状態で行ってください。



2 ACアダプターやシガープラグを、家庭電源コンセント(AC100V)や車のシガーライターソケット(DC12V)に接続する



- ACアダプターやシガープラグは、付属のもの以外は使用しないでください。
- 付属のシガープラグは、DC12V⊖接地車専用です。24V車(大型トラック、バス等)では、使用できません。
- シガープラグ内部のヒューズが切れた場合は、新しいヒューズ(1A)と交換してください。また、交換してもすぐにヒューズが切れる場合は、使用を中止し、シガープラグを抜いてお買い上げの販売店、または最寄りの弊社営業所・サービス部にご相談ください。



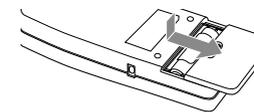
ニッカド電池で使う

初めて使用するときや、[]が点灯しているときは、付属のACアダプターやシガープラグを接続して、セットしたニッカド電池を充電してください。

電池をセットする

1 電池カバーを外す

電池をセットするときは、必ず電源を切った状態で行ってください。



2 ニッカド電池4本を内部の指示に従ってセットし、電池カバーを閉める



充電する

1 ニッカド電池をセットする

2 外部電源を接続する

- ニッカド電池は、こまめに充電を繰り返すとメモリー効果という現象が発生し、充電できにくくなります。なるべく電池の残量を使いきったあと満充電してください。
- ニッカド電池には寿命があります。外部電源に接続しても十分に充電ができなくなったら寿命です。新しいニッカド電池(単3形700mAh)4本と交換してください。
- 長時間の充電は、ニッカド電池の寿命を短くするだけでなく、発熱などの原因となります。
- 種類の違う電池や古い電池などを混ぜて使用しないでください。
- 長時間使用しないときは、電池を抜いてください。
- 電池の残量が完全になくなった場合は、ディスプレイになにも表示されません。

警告

乾電池をセットしているときは、外部電源に接続しない乾電池(アルカリ電池、マンガン電池)を使用することもできませんが、充電することはできません。セットしたまま外部電源に接続すると、充電され、破裂や液漏れにより、火災やケガ、周囲を汚損する原因となります。

電源について

ローバッテリー表示について

電池の残量が少なくなると、[]が点灯します。

- 電池を交換するか、ニッカド電池の場合は充電を行ってください。

バッテリーチェックについて

電池の残量が表示できます。

使用中にC/ACキー[25]を押す

電池の残量が11段階で表示されます。(約5秒間)

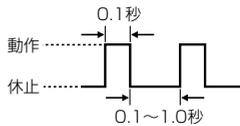


- 表示中と同じ操作をすると、表示が消えます。

セーブモードについて

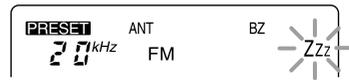
受信中に、小刻み(0.1秒間隔)にセーブ時間(0.1秒~1.0秒)を入れることで、電池の消費を抑え、使用可能時間を長くします。

セーブモードにすると、操作や受信が約5秒以上途切れるとセーブ状態になります。



セーブモードにする

- 1 電源を入れる
PWRボタン[1]を押し続ける(18ページ)
- 2 FUNCボタン[7]を押す
- 3 数字キー(4)[15]を押す
[Zz]が点灯し、セーブモードになります。



操作や受信が約5秒以上途切れると

VFOモード、チャンネルメモリーリード、サーチのマニュアル動作中に、操作や受信が約5秒以上途切れるとセーブ状態になります。



- セーブ時間の数字キーを表わします。
- 出荷時は0.1秒に設定されています。

セーブ時間を変更する

- 1 数字キーでセーブ時間を選ぶ

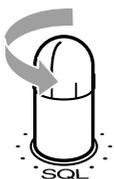
数字キー	セーブ時間	数字キー	セーブ時間
1	0.1秒	6	0.6秒
2	0.2秒	7	0.7秒
3	0.3秒	8	0.8秒
4	0.4秒	9	0.9秒
5	0.5秒	0	1.0秒

- 2 FUNCボタン[7]を押す
- 3 数字キー(4)[15]を押す

VFOモード

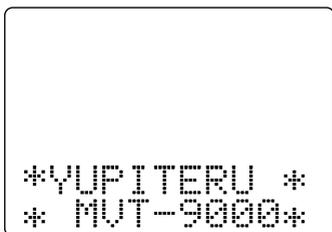
MVT-9000のVFOモードでは、VFO AとVFO Bの2つの周波数を切り換えて受信できます。

1 SQLツマミを左に回しきる

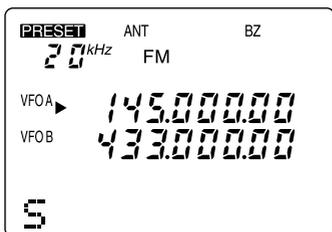


2 電源を入れる

PWRボタン[1]を押し続けると電源が入り、オープニングメッセージが約2秒間表示されます。



•オープニングメッセージは、お好みに応じて変更することができます。(54ページ)



•購入後、初めて電源を入れたときはVFOモードになります。

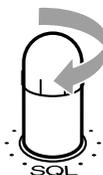
3 音量を調節する

VOLツマミ[9]を回して調節します。

4 受信状態を調整する(スケルチ調整)

“ザー”というノイズが出ているときは、ノイズが消える位置までSQLツマミを右に回します。このとき、モニターボタン[3]は押さないでください。(「モニター機能」56ページ)

また、音声が出ているときは、SQLツマミを中程の位置にします。



•SQLツマミを右に回しすぎると弱い電波が受信できなくなり、左に回しすぎると雑音などを受信してしまうので、聞きたい電波に合わせて調整します。

プリセットについて

電波は使用する目的や周波数帯によって、受信モード(電波型式)や周波数ステップ(周波数の間隔)の割り当てが異なります。

本機は、あらかじめ周波数帯に合わせて、受信モードや周波数ステップ、オフセットの設定/解除、デュプレックスのシフト幅の情報が設定されています。(「主な無線局の受信モードと周波数ステップ」65ページ)プリセットモードのときは[PRESET]が点灯します。

VFOモードは、ディスプレイに[PR]や設定状態表示部([SRCH]、[SCAN]、[SELB-SRCH]、[SELB-SCAN]、[INDEX]、[PGM])、周波数ステップ/チャンネルメモリー表示部にチャンネルナンバーやP表示(P)ではなく、周波数ステップが点灯している状態で。

このモードでは、周波数を自由に変更でき、主にチャンネルメモリーされていない周波数を受信する場合に使用します。購入後、初めて電源を入れたときはVFOモードになります。

VFOモードにする

次の4つの方法があります。

[SRCH]、[SELB-SRCH]が点灯中

SRCHキー[31]を押す

[SCAN]、[SELB-SCAN]が点灯中

MRキー[28]を2回押す

チャンネルナンバーや[PGM]が点灯中

MRキー[28]を押す

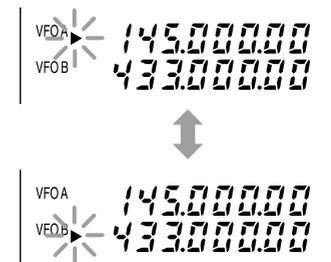
[P]が点滅中

C/ACキー[29]を押す

VFO AとVFO Bを切り換える

ENTキー[26]を押す

押すたびに切り換わります。

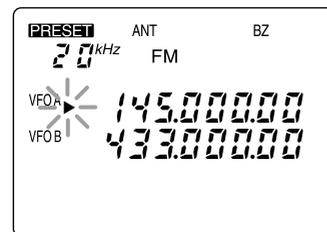


参考

購入後、初めて電源を入れたときはVFO Aに145.000MHz、VFO Bに433.000MHzが表示され、VFO Aに[▶]が点灯します。これは145.000MHzの周波数を受信している状態です。

また、VFO A、VFO Bのそれぞれの設定は、次表に示すように、個々に設定できる項目と共通で設定される項目があります。

本機は2種類の周波数をVFO A、VFO Bのそれぞれに設定することができます。



•受信中の周波数には[▶]が点灯します。

項目	個別設定	共通設定
受信周波数	○	
周波数ステップ	○	
受信モード	○	
プリセットモードの 設定/解除	○	
オフセットモードの 設定/解除	○	
デュプレックスモードの 設定/解除	○	
シフト幅、方向		○
アッテネーター機能の設定/解除	○	
プライオリティチャンネルの登録		○
ディレイの切換え		○
インデックス機能の設定/解除		○
AMアンテナの切換え		○
ビーブ音の切換え		○
セーブモードの設定/解除		○
ランプ機能の設定/解除		○
キーロック機能の設定/解除		○
バンドスコープの表示/否表示		○

数字キーによる選局

VFOモードのとき、数字キーを使って周波数を入力することができます。

1 受信したい周波数を、上の位から順に入力する

MHz桁、小数点キー、kHz桁、Hz桁の順に入力します。入力途中の数字は点滅します。

2 ENTキーを押す

入力が確定し、周波数が点滅から点灯に変わります。

- MHzは最大4桁まで入力できます。小数点キー(.)を押さずに5桁目を入力すると、はじめに入力した数値から無効になります。また、kHzとHzは合わせて5桁まで入力できます。小数点キー(.)を押したあとに6桁目を入力すると“ポポ”と鳴り、6桁目は受け付けません。
- 中波放送など1MHz未満の周波数を入力する場合は、数字キー(0)のあとに小数点キー(.)を押してから入力します。(はじめの数字キー(0)を省略することもできます)
- 入力された数値は、プリセット、オフセット、周波数ステップ、受信モードなどの設定状況に合った数値に変更されて確定されます。また、入力された数字が本機の受信範囲以外の場合は“ポポ”と鳴り、[* Off BAND! *]が一瞬表示され入力前の表示に戻ります。
- 周波数の入力中に約10秒以上操作が行われないと入力できず、操作前の表示に戻ります。

入力例

① [3] [4] [5] [ENT] と入力した場合

入力キー	表示
3	---- 3-
4	---- -3.4-
5	---- -34.5-
ENT	345.000.00

② [2] [1] [0] [0] [0] [ENT] と入力した場合

入力キー	表示
2	---- 2-
1	---- -2.1-
0	---- -21.0-
0	---- 210.0-
0	---- 100.0-
ENT	1000.000.00 (はじめに入力した2が無効になる)

③ [9] [8] [7] [.] [9] [8] [7] [6] [5] [4] [ENT] と入力した場合

入力キー	表示
9	---- 9-
8	---- -9 8-
7	---- -98 7-
.	-987. ---
9	-987.9 ---
8	-987.98 --
7	-987.987. --
6	-987.987.6-
5	-987.987.65
4	-987.987.65
ENT	987.987.65 (エラー音が鳴り受け付けない)

選択されている周波数ステップにより確定される周波数は異なりますが、プリセットモードが設定されているときに確定される周波数は987.875.00となります。

④ [.] [1] [5] [ENT] と入力した場合

入力キー	表示
.	---0. ---
1	---0.1 ---
5	---0.15 --
ENT	150.00

周波数の変更や訂正

周波数の入力中に、桁を選んで数字を変更することができます。

1 C/ACキーを押す

下1桁が早く点滅します。



2 ▲→キーまたは▼←キーを押して、訂正する桁を選ぶ

早く点滅している桁が訂正できます。

3 正しい数字を入力する

DIALつまみや数字キーで正しい数字を入力します。

4 ENTキーを押す

入力途中の状態に戻ります。続けて入力する場合は、次の数字を入力します。

• 約10秒以上操作が行われないうちは、操作前の表示に戻ります。

5 もう一度、ENTキーを押す

入力が確定します。

DIALつまみによる選局

VFOモードのとき、DIALつまみを回すと、選んでいる周波数ステップで1ステップずつ周波数が変わります。

周波数を進める

DIALつまみを右に回す



周波数を戻す

DIALつまみを左に回す



▲→キーまたは▼←キーによる選局

VFOモードのとき、▲→キーまたは▼←キーを押すと、選んでいる周波数ステップで1ステップずつ周波数が変わります。

周波数を進める

▲→キーを押す



周波数を戻す

▼←キーを押す



▲→キーまたは▼←キーを1秒以上押し続けると、押されている間は周波数の早送り、または早戻しができます。

現在受信している周波数を中心にして、最大で上下各32チャンネルの範囲の電波状態(電界強度)を表示させることができます。また、表示範囲は標準レンジとナローレンジに切り換えることができます。

参考

バンドスコープで同時に表示できる周波数範囲は最大で1600kHzです。表示されるチャンネル数は、選択している受信モードと周波数ステップにより、次のように異なります。ナローレンジは、標準レンジに比べ、よりすばやく周囲の電波状態をチェックすることができますが、チェックできる周波数範囲は狭くなります。

受信モード	周波数ステップ	表示チャンネル数	
		標準レンジ	ナローレンジ
W-FM以外	25kHz以下	65CH	33CH
W-FM以外	30/50kHz	33CH	15CH
W-FM以外	100kHz	15CH	←
W-FM以外	125kHz	13CH	←
W-FM	25kHz以下	65CH	33CH
W-FM	50kHz	33CH	←
W-FM	100kHz	15CH	33CH
W-FM	125kHz	13CH	33CH

※W-FMのナローレンジの周波数ステップは5kHzです。その他は、周波数ステップが5kHz以上のときには選択されている周波数ステップが観測ステップとなり、周波数ステップが1kHz以下のときは3kHzステップになります。

- W-FMのとき、マーカーが設定されている場合は、表示範囲の切り換えはできません。
- W-FMの周波数を受信中に、その電波の強弱や変動によって、中心以外に表示されているバー表示の高さが上下する場合があります。
- 中波帯(A M 放送帯)を内蔵のバーアンテナで受信する場合、受信している周波数から離れた電波ほど、その電波を実際に受信した場合よりもバーの高さは低く表示されます。
- 強い電波のバー表示では、前後のバーがその電波の影響を受けることがあります。

Sメーターについて

バンドスコープを表示していないときは、Sメーターになります。Sメーターは、選択されている電波の状態を表示し、受信するとBUSY表示が点灯します。

BUSY表示 Sメーター



- Sメーターとバンドスコープの表示は、必ずしも1対1で対応していません。[Sメーターが振れているのにバンドスコープが表示されない場合]や、その逆になる場合があります。
- FMやW-FMの電波は、音声の大小や強弱によって受信している周波数付近で電界強度が変動します。その場合、それに応じてSメーターやバンドスコープの表示も変動する場合があります。
- 中波帯(AM放送帯)を内蔵のバーアンテナで受信する場合、他のノイズも合わせて受信してしまうため、放送局のないはずの周波数でSメーターが振れることがあります。

バンドスコープを表示させる

1 BSキー[27]を押す

バンドスコープが表示されます。



•もう1度BSキー[27]を押すとバンドスコープの表示が消え、Sメーターになります。

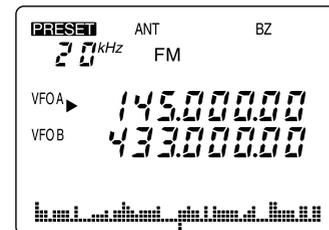
表示範囲の切り換え

2 FUNCボタン[7]を押す

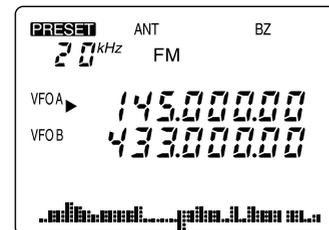
[FUNC]が点灯します。

3 SCANキー[30]を押す

手順2、3を行うたびに、標準レンジとナローレンジが切り換わります。



標準レンジ



ナローレンジ

MHz桁の周波数変更

MHz桁だけの変更ができます。

1 FUNCボタン[7]を押す

[FUNC]が点灯します。



2 ▼←キー[24]を押す

MHz桁がゆっくり点滅し、下1桁が早く点滅します。



3 ▲→キー[23]を押して、訂正する桁を選ぶ

早く点滅している桁が訂正できます。

4 正しい数字を入力する

DIALツマミ[8]や数字キーで正しい数字を入力します。

5 ENTキー[26]を押す

MHz桁の周波数が変更されます。

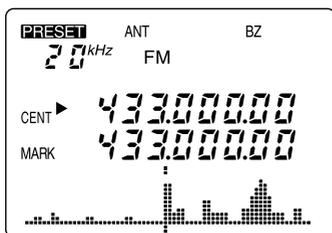
•途中で変更を中止する場合はC/ACキー[25]を押します。操作前の表示に戻ります。

マーカ機能(マーカモード)

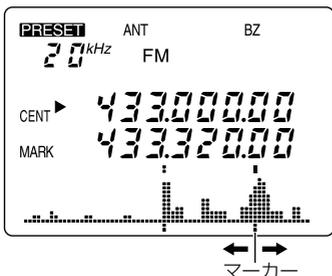
MONIボタン③を押したときだけ、マーカで選んだ別の周波数を、一時的に受信することができます。マーカモード中は、周波数表示部に[CENT]と[MARK]が点灯し、周波数表示部(上)には受信中の周波数(センター周波数)が表示され、周波数表示部(下)にはマーカで選んだ周波数(マーカ周波数)が表示されます。

マーカを設定する

- 1 バンドスコープの表示を確認する
- 2 FUNCボタン⑦を押す
[FUNC]が点灯します。
- 3 BSキー⑳を押す
マーカモードになります。このとき、マーカはセンター周波数と同じ位置にあります。
•サーチモードやスキャンモードにしたときや、バンドスコープを消すと、マーカモードは解除されます。



- 4 マーカ周波数を選ぶ
DIALツマミ⑧や▲→キー㉓、▼←キー㉔でマーカを移動させます。

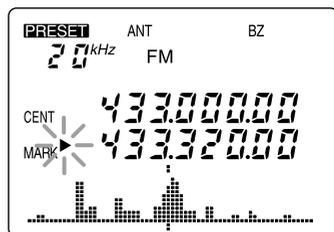


- サーチモードやスキャンモード中は、マーカモードにすることはできません。
- W-FMを受信中にバンドスコープをナローレンジにしていると、マーカモードにすることはできません。
- センター周波数は、数字キーを使って変更することができます。

マーカ周波数を受信する

MONIボタン③を押す
押している間は、マーカ周波数の[▶]が点滅し、マーカ周波数を受信します。MONIボタン③を放すとセンター周波数の受信に戻ります。

- マーカ周波数を受信中は、マーカ周波数を中心として周囲の電波状態を表示します。



マーカ周波数をセンター周波数にコピーする

MONIボタン③を押している間だけ受信するマーカ周波数を、センター周波数として使いたいときに、周波数を入力し直す必要がなく便利です。

マーカ周波数を受信中に、MONIボタン③を押したままENTキー㉔を押す

“ピピッ”と鳴り、マーカ周波数がセンター周波数にコピーされます。

デュプレックス受信

決められた2つの周波数を使い交信(デュプレックス交信)している無線局を受信するときに、その2つの周波数をワンタッチで切り換えて聞くことができます。

例) 国際マリンバンドでの船舶と海岸局の間の交信を受信する場合、船舶の周波数を受信中に、海岸局側の周波数に切り換えて聞くことができます。

周波数を切り換えて聞く

- 1 [DUP]の点灯を確認する
- 2 MONIボタン③を押す
押している間は[DUP]が点滅し、もう一方の周波数が聞けます。放すと元の周波数が聞けます。

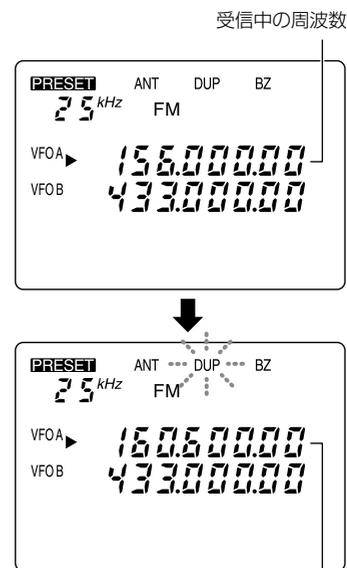
デュプレックスモードに設定する

- 1 FUNCボタン⑦を押す
[FUNC]が点灯します。
- 2 数字キー(5)⑩を押す
[DUP]が点灯し、デュプレックスモードになります。



解除するときは、もう1度手順1、2を行います。

- デュプレックス交信していない無線局を受信中でも、デュプレックスモードに設定することができます。
- デュプレックス交信では、2つの周波数の間隔(シフト幅)が電波法で決められています。(「主な無線局の受信モードと周波数ステップ」65ページ)



もう一方の周波数

- マーカモード中でも、マーカとセンター周波数が同じ位置にあるときは、デュプレックス受信できます。

秘話交信を聞く

小電力コードレスなどの秘話機能には、音声を反転させて送信し、受信したあと、もう1度反転させて通常の音声に戻す方式が多く使われています。それらの電波は、音声が反転されているため、通常の音声として聞くことができません。MVT-9000では、反転された音声の電波を受信した場合でも、通常の音声に戻して聞くことができます。

音声反転(スクランブル)の秘話交信を聞く

1 音声反転の秘話交信を受信中に、MONIボタン[3]を1秒以内に2回押す

通常の音声に戻されて、通話が聞こえます。削除するときは、もう1度MONIボタン[3]を押してください。

2 LOCKボタン[4]を約1秒以上押す

[6]が点灯し、受信している周波数がロックされます。

3 DIALツマミ[8]を回し、聞き取りやすく調整する

- 音声反転以外の秘話交信を、通常の音声として聞くことはできません。
- 通常の音声を受信するときは、この操作をしないでください。
- 音声反転された交信を受信中には、音質が変わることがあります。

解除するときは、FUNKボタン[7]を押したあと、LOCKボタン[4]を押して受信周波数ロックを解除してから、もう1度MONIボタン[3]を押してください。

※ 受信周波数をロックしているときは、DIALツマミで周波数を切り換えることはできません。

サーチ

電波(周波数)をサーチ(探す)して見つけると自動的に受信する機能です。設定されている受信モードと、周波数ステップでサーチし、受信中に約2秒以上電波が途切れると再びサーチが始まります。

- 電波が途切れてから再びサーチするまでの時間は、約4秒に変更することができます。(「ディレイの切換え」146ページ)

VFOサーチモード

VFOモードのとき、表示中の周波数からサーチさせることができます。

VFOサーチする

SRCHキー³¹を押す

[SRCH]が点灯し、サーチが始まります。



解除するときは、もう1度SRCHキー³¹を押します。

[SRCH]が消灯します。

- サーチが停止中(受信中)にDIALツマミ⁸や▲→キー²³、▼←キー²⁴を操作すると再びサーチが始まります。

サーチの方向を変える

DIALツマミ⁸や▲→キー²³、▼←キー²⁴を操作する

周波数の高い方へサーチ

DIALツマミ⁸を右に回す

または

▲→キー²³を押す

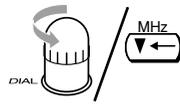


周波数の低い方へサーチ

DIALツマミ⁸を左に回す

または

▼←キー²⁴を押す



各サーチモード中のマニュアル動作について

サーチを一時的に停止させて、選んでいる周波数ステップで1ステップずつ周波数を変えることができます。

1 サーチモード中に、ENTキー²⁶を押す

周波数表示部の[▶]が点滅し、マニュアル動作になります。



2 周波数を選ぶ

DIALツマミ⁸や▲→キー²³、▼←キー²⁴で選びます。

解除するときは、SRCHキー³¹を押します。サーチモードに戻ります。

- マニュアル動作中に、もう1度ENTキー²⁶を押すと、VFOモードになります。

バンドサーチモード

無線局の周波数がわからない場合でも、所属するバンド(周波数帯域)がわかっているときは、指定したバンド(最大4バンド)内をまとめてサーチさせることができる機能です。本機にはA~Jとa~jの計20種類の登録できるバンドがあり、そのうちA~Jの10種類には、あらかじめバンドが登録されています。

バンドの初期登録内容

バンド	バンド指定キー	主な用途
A	(1)	FM/TV放送(1~3CH)
B	(2)	航空無線(VHF)
C	(3)	アマチュア無線(144MHz)
D	(4)	消防/救急無線
E	(5)	船舶無線(VHF)
F	(6)	TV放送(4~12CH)
G	(7)	アマチュア無線(430MHz)
H	(8)	タクシー無線
I	(9)	業務無線(MCA)
J	(0)	パーソナル無線
a	(.) (1)	すべて0.1~2039MHzが登録されていますが、バンド名の登録はありません。
b	(.) (2)	
c	(.) (3)	
d	(.) (4)	
e	(.) (5)	
f	(.) (6)	
g	(.) (7)	
h	(.) (8)	
i	(.) (9)	
j	(.) (0)	

1 サーチしたいバンドを選ぶ(バンド指定)

最大4つのバンドが指定できます。

A~Jのバンド

数字キーを押して聞きたいバンドを指定します。

a~jのバンド

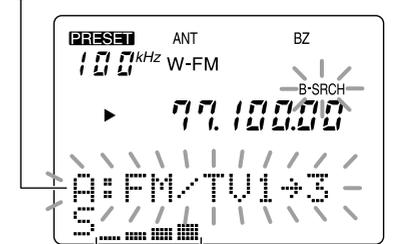
小数点キー(.)²²を押したあと、数字キーを押して聞きたいバンドを指定します。

- 2つ目のバンド指定からは小数点キー(.)²²を押す必要はありません。

2 SRCHキー³¹を押す

[B-SRCH]とバンド内容が点灯し、バンドサーチが始まります。

バンド内容:受信後に表示します。



Sメーター

解除するときは、SRCHキー³¹を押します。[B-SRCH]が消灯します。

- A~Jのバンドと、a~jのバンドを混在させてバンドを指定することはできません。
- 指定した順番にかかわらず、周波数の低い順にサーチされます。
- 指定されたバンドの全チャンネルがサーチパス指定されていると、「ポポ」と鳴り、[ALL PASS]が約1秒間表示されます。
- バンドスコープを表示させると、バンド内容は表示されません。
- バンドの初期登録内容は変更することができます。(「バンド内容を登録(変更)する」J52ページ)

セレクトバンドサーチモード

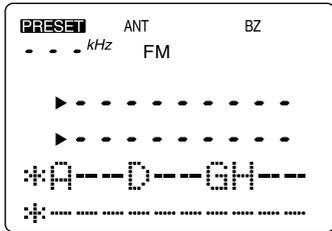
基本的にはバンドサーチと同じ機能ですが、同時に最大20バンドまで指定してサーチさせることができます。

1 小数点キー(.)²²を押す

2 SRCHキー³¹を押す

バンド確認画面が表示されます。(すでに指定されているバンドが表示されます)

•表示されたバンドをサーチするときは、手順7に進みます。サーチが始まります。



•指定されていないバンドは[-]で表示されます。
•初めて設定するときは、A~Jが表示されます。

3 ENTキー²⁶を押す

バンドの情報が表示されます。



バンド内容

4 指定したいバンドを選ぶ

DIALツマミ⁸や▲→キー²³、▼←キー²⁴で選びます。

5 MONIボタン³を押す

選んだバンドが指定されます。

•バンドの指定を削除する場合は、C/ACキー²⁵を押します。
•続けてほかのバンドを指定する場合は手順4、5を繰り返します。

6 希望するすべてのバンドの指定が終わったら、ENTキー²⁶を押す

手順2のバンド確認画面に戻ります。

7 指定したバンドを確認したら、SRCHキー³¹を押す

[SELB-SRCH]が点灯し、セレクトバンドサーチが始まります。

解除するときは、SRCHキー³¹を押します。
[SELB-SRCH]が消灯します。

サーチパスメモリー

次ページに続く➡

常に雑音が出ているなど、不要な周波数をサーチパスとして登録しておく、サーチ中に受信しないのでパスできますので、効率的にサーチさせることができます。

サーチパスに登録する

1 パスしたい周波数を受信する

VFOモードや各サーチモードで受信します。



2 FUNCボタン⁷を押す

3 C/ACキー²⁵を押す

"ピピッ"と鳴り、[P]が約1秒間表示され、受信中の周波数がサーチパスに登録されます。

次のサーチから受信しなくなります。



•最大500まで登録できます。すべて登録されているときは、"ポポ"と鳴り、[FULL!]が約1秒間表示され、登録を受け付けません。

サーチパスメモリーリードする

登録しているサーチパスメモリーを呼び出して受信することができます。

1 FUNCボタン⁷を押す

2 数字キー(0)²¹を押す

[P]が点滅し、受信中の周波数より高い周波数のうち、最も低いサーチパスされた周波数を呼び出して受信します。



•サーチパスに何も登録されていないと、"ポポ"と鳴り、[NULL!]が約1秒間表示されます。

3 受信したいサーチパスメモリーを選ぶ

DIALツマミ⁸や▲→キー²³、▼←キー²⁴で選びます。
▲→キーまたは▼←キーを1秒以上押し続けると、早送りまたは早戻しができます。

解除するときは、もう1度手順1、2を行います。操作する前の状態に戻ります。

サーチパスの登録を削除する

サーチパスに登録した周波数を削除することができます。

1 削除したい周波数を呼び出す
サーチパスメモリーリードで呼び出します。

2 FUNCボタン[F]を押す

3 C/ACキー[C]を押す

"ピピッ"と鳴り、呼び出した周波数がサーチパスから削除されます。

- 削除すると、その周波数より1つが高い周波数のサーチパスが表示されます。
- すべてのサーチパスを削除すると、"ポポ"と鳴り、[NULL!]が約1秒間表示され、サーチパスメモリーリードの前のモードになります。



メモリーと スキャン

よく聞くチャンネル(無線局)などは、周波数や周波数ステップ、受信モードなどの情報を含めチャンネルメモリーとして登録してしておくことができます。

登録したチャンネルメモリーは、自動的に呼び出し(スキャン)しながら受信することができます。(38ページ)

登録できる内容について

チャンネルごとに以下の内容が登録できます。

- 受信周波数
- 周波数ステップ
- 受信モード
- プリセットの設定/解除
- オフセットの設定/解除
- アッテネーター機能の設定/解除
- デュプレックスモードのシフト幅

チャンネルメモリーに登録する

1 登録したい周波数を受信する

VFOモードや各サーチモードで受信します。



2 チャンネル番号を入力する

数字キーを押して、その周波数に0~999までの間でチャンネル番号を入力します。

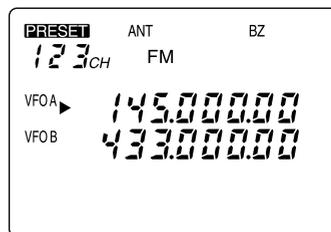


- チャンネル番号を入力せずに登録することもできます。そのときのチャンネル番号は、自動的に最後に表示された番号の次の番号になります。
- 再度、同じチャンネル番号に登録すると、登録内容は更新されます。

3 FUNCボタン[7]を押す

4 MRキー[28]を押す

“ピピッ”と鳴り、登録したチャンネル番号が約1秒間表示されます。



- 適切でないチャンネル番号が入力されて登録されたときは、“ポポ”と鳴り、[Error]が約1秒間表示されます。



- 950~999のチャンネルは、「オートライト機能」(47ページ)により消去されますので、注意してください。

チャンネルメモリーリード

登録しているチャンネルメモリーを呼び出して受信することができます。

1 呼び出したいチャンネル番号を入力する

数字キーを押して、チャンネル番号(0~999)を入力します。



2 MRキー[28]を押す

選んだチャンネル番号のチャンネルメモリーを呼び出して受信します。



バンドスコープを表示していないときは、設定されているバンク区分、バンク名、チャンネル名が交互に表示されます。設定されていないときは、バンク区分のみが表示されますので、点滅しているように見えます。

- 選んだチャンネル番号に何も登録されていないときは、周波数が000.000.0の表示になりますが、操作前に受信していた周波数を受信し続けます。
- チャンネル番号を入力しないで呼び出すと、以前に最後に呼び出されたチャンネルメモリーが呼び出されます。
- 適切でないチャンネル番号が入力されて呼び出されたときは、“ポポ”と鳴り、[Error]が約1秒間表示されます。

3 他のチャンネルメモリーを選ぶ

DIALツマミ[8]や▲→キー[23]、▼←キー[24]で選びます。

▲→キーまたは▼←キーを1秒以上押し続けると、早送りまたは早戻しができます。

解除するときは、MRキー[28]を押します。

VFOモードになります。

チャンネルメモリーの登録を削除する

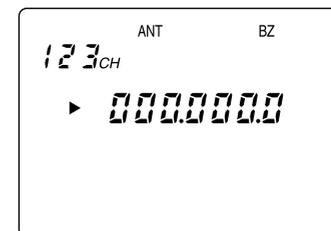
1 削除したいチャンネルメモリーを呼び出す

チャンネルメモリーリードで呼び出します。

2 FUNCボタン[7]を押す

3 MRキー[28]を押す

“ピピッ”と鳴り、チャンネルメモリーから削除され、周波数が000.000.0の表示になります。(受信は続きます)



- チャンネル名を含めチャンネルメモリーに登録されているすべての情報が削除されます。
- 1つのバンク中のすべてのチャンネルメモリーを削除すると、バンク名も削除されます。

スキャンパスに登録する

チャンネルメモリーにスキャンパスに登録しておく、スキャン中に受信をパスすることができます。

1 パスしたいチャンネルメモリーを呼び出す
チャンネルメモリーリードで呼び出します。

2 FUNCボタン[7]を押す

3 C/ACキー[25]を押す

“ピピッ”と鳴り、呼び出したチャンネルメモリーにスキャンパスが登録され、[CH]が点滅します。次のスキャンから受信しなくなります。

- スキャンパスが登録されているチャンネルメモリーは、チャンネルメモリーリードで呼び出すことができます。そのときは[CH]が点滅します。
- プライオリティチャンネルはスキャンパスの登録ができません。

スキャンパスの登録を解除する

登録したスキャンパスを解除することができます。

1 解除したいチャンネルメモリーを呼び出す
チャンネルメモリーリードで呼び出します。

2 FUNCボタン[7]を押す

3 C/ACキー[25]を押す

呼び出したチャンネルメモリーのスキャンパスが解除されます。

- [CH]の点滅が点灯になります。

チャンネルメモリーの内容をVFOモードへコピーする

呼び出したチャンネルメモリーをそのままVFOモードにコピーし、VFOモードで受信できます。

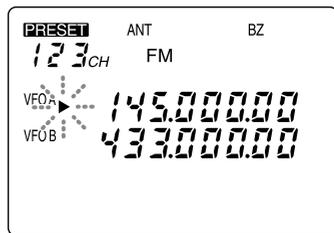
1 コピーしたいチャンネルメモリーを呼び出す

チャンネルメモリーリードや各スキャンで呼び出します。

2 FUNCボタン[7]を押す

3 数字キー(7)[18]を押す

VFOモード表示に変わり、VFO Aに[▶]が点滅します。



4 コピー先を選択する

DIALツマミ[8]や▲→キー[23]、▼←キー[24]でVFO AまたはVFO Bを選びます。

5 ENTキー[26]を押す

チャンネルメモリーの内容がコピーされ、VFOモードになります。

- 操作を途中でやめる場合は、C/ACキー[25]を押します。
- 周波数だけでなく、チャンネルメモリーに登録されていたすべての設定がコピーされます。
- プライオリティチャンネルをコピーすることもできます。

他のチャンネルメモリーへコピーする

チャンネルメモリーを呼び出して、その内容を別のチャンネル番号にコピーできます。

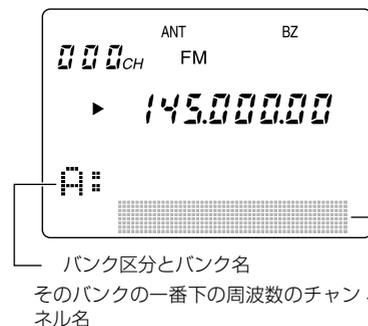
1 コピーしたいチャンネルメモリーを呼び出す

チャンネルメモリーリードや各スキャンで呼び出します。

2 FUNCボタン[7]を押す

3 ▲→キー[23]を押します。

コピー先のバンク指定表示になります。



4 コピー先のバンクを選ぶ

DIALツマミ[8]や▲→キー[23]、▼←キー[24]で選びます。

5 ENTキー[26]を押す

バンクが確定し、チャンネル指定表示になります。

6 コピー先のチャンネルを選ぶ

DIALツマミ[8]や▲→キー[23]、▼←キー[24]で選びます。ドットマトリックス表示部のチャンネル名称が切り換わります。

7 ENTキー[26]を押す

“ピピッ”と鳴り、チャンネルメモリーがコピーされます。

コピー先のチャンネル番号が約1秒間表示され、コピー元のチャンネルメモリーを呼び出している状態に戻ります。

- 操作を途中でやめる場合は、C/CAキー[25]を押します。
- プライオリティチャンネルも他のチャンネル番号へコピーできますが、チャンネルメモリーからプライオリティチャンネルへのコピーはできません。

スキャンは、あらかじめ登録したチャンネルメモリーを順に呼び出しながら自動的に無線局を探す機能です。

スキャンについて

本機には、連続スキャン、バンクスキャン、セレクトバンクスキャンの3種類のスキャン機能があります。また、それぞれのスキャン機能は特定の受信モードの無線局だけを探すモードスキャンと、プログラム登録したチャンネルだけを探すプログラムスキャンを選ぶこともできます。

本機では、50チャンネルを1バンクとし、20バンク最大1000チャンネルの登録ができます。

チャンネル番号	区分	バンク指定キー
0~49	A	(1)
50~99	B	(2)
100~149	C	(3)
150~199	D	(4)
200~249	E	(5)
250~299	F	(6)
300~349	G	(7)
350~399	H	(8)
400~449	I	(9)
450~499	J	(0)
500~549	a	(.) (1)
550~599	b	(.) (2)
600~649	c	(.) (3)
650~699	d	(.) (4)
700~749	e	(.) (5)
750~799	f	(.) (6)
800~849	g	(.) (7)
850~899	h	(.) (8)
900~949	i	(.) (9)
950~999	j	(.) (0)

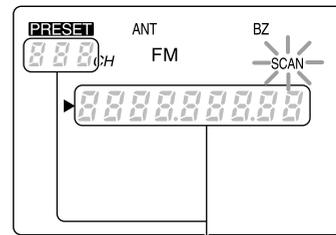
•バンクj(950~999チャンネル)は、オートライト用バンクと兼用です。(「オートライト機能」47ページ)

連続スキャンする

登録したすべてのチャンネルメモリーを、チャンネル番号の小さい順にスキャンして、無線局を見つけると自動的に受信します。

SCANキー \square を押す

[SCAN]が点灯し、スキャンが始まります。



検索中

解除するときは、SCANキー \square またはMRキー \square を押します。

[SCAN]が消灯し、チャンネルメモリーリードになります。

•受信中に約2秒以上電波が途切れると、再びスキャンを始めます。再びスキャンするまでの時間は、約4秒に変更することができます。(「ディレイの切換え」46ページ)

スキャンの方向を選択する

DIALツマミ \square や \blacktriangle →キー \square 、 \blacktriangledown ←キー \square を操作する

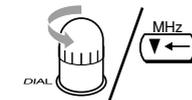
チャンネル番号の大きい方へスキャン

DIALツマミ \square を右に回す
 \blacktriangle →キー \square を押す



チャンネル番号の小さい方へスキャン

DIALツマミ \square を左に回す
 \blacktriangledown ←キー \square を押す



- スキャンが停止中(受信中)に、DIALツマミ \square や \blacktriangle →キー \square 、 \blacktriangledown ←キー \square を操作すると再びスキャンが始まります。
- スキャン停止中に、受信中のチャンネルメモリーの登録を削除すると、再びスキャンが始まります。また、チャンネルメモリーがすべて削除されると、「ポポ」と鳴り、[NULL !]が約1秒間表示されます。
- スキャン停止中に、受信中のチャンネルメモリーをスキャンパスに登録すると、再びスキャンが始まります。また、チャンネルメモリーがすべてスキャンパスに登録されると、「ポポ」と鳴り、[ALL PASS]が約1秒間表示され、チャンネルメモリーリードになります。

バンクスキャンする

指定したバンクの中にあるチャンネルメモリーを小さい順にスキャンします。

1 スキャンしたいバンクを選ぶ(バンク指定)

最大4つのバンクが指定できます。

A~Jのバンク

数字キーを押して聞きたいバンクを指定します。

a~jのバンク

小数点キー(.) \square を押したあと、数字キーを押して聞きたいバンクを指定します。

•2つ目のバンク指定からは小数点キー(.) \square を押す必要はありません。

2 SCANキー \square を押す

[B-SCAN]が点灯し、バンクスキャンが始まります。

解除するときは、SCANキー \square またはMRキー \square を押します。

[B-SCAN]が消灯し、チャンネルメモリーリードになります。

- A~Jのバンクとa~jのバンクを混在させて、バンクを指定することはできません。
- 指定した順番にかかわらず、チャンネル番号の小さい順にスキャンされます。
- 指定されたバンクの全チャンネルメモリーがスキャンパスに登録されていると、「ポポ」と鳴り、[ALL PASS]が約1秒間表示されます。

セレクトバンクスキャン

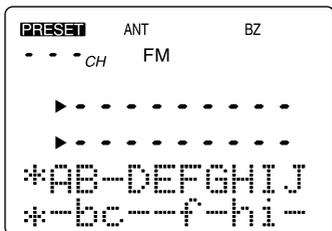
基本的にはバンクスキャンと同じ機能ですが、同時に最大20バンクまで指定してスキャンさせることができます。

1 小数点キー(.)^[22]を押す

2 SCANキー^[30]を押す

バンク確認画面が表示されます。(すでに指定されているバンクが表示されます)

- 表示されたバンクをスキャンするときは、手順7に進みます。
- スキャンが始まります。



- 指定されていないバンクは[-]で表示されます。
- 初期設定では、すべて[-]が表示されます。

3 ENTキー^[26]を押す

バンクの情報が表示されます。



- 1行目: バンク区分とバンク名
- 2行目: チャンネル名

- 初めはバンクAの中の一 smallest チャンネル番号のチャンネルメモリーが表示されます。

4 指定したいバンクを選ぶ

DIALツマミ^[8]や▲→キー^[23]、▼←キー^[24]で選びます。

5 MONIボタン^[3]を押す

選んだバンクが指定されます。

- バンクの指定を削除する場合は、C/ACキー^[25]を押します。
- 続けてほかのバンクを指定する場合は手順4、5を繰り返します。

6 希望するすべてのバンクの指定が終わったら、ENTキー^[26]を押す

手順2のバンク確認画面に戻ります。

7 指定したバンクを確認したら、SCANキー^[30]を押す

[SELB-SCAN]が点灯し、セレクトバンクスキャンが始まります。

解除するときは、SCANキー^[30]またはMRキー^[28]を押します。

[SELB-SCAN]が消灯し、チャンネルメモリーリードになります。

連続スキャンやバンクスキャン、セレクトバンクスキャンを行うときに、指定した受信モードのみをスキャンを行うことができます。

モードスキャンで連続スキャンする

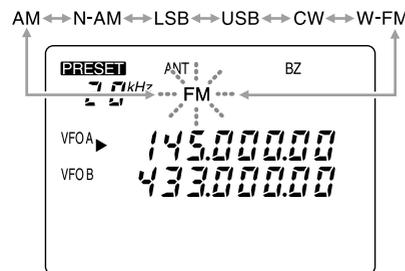
1 FUNCボタン^[7]を押す

2 数字キー(8)^[19]を押す

選ばれている受信モードが点滅します。

3 受信モードを選ぶ

DIALツマミ^[8]や▲→キー^[23]、▼←キー^[24]で選びます。受信モードは、次のように切り換わります。



4 ENTキー^[26]を押す

スキャンが始まります。

- モードスキャン中は、受信モードが点滅します。

解除するときは、SCANキー^[30]またはMRキー^[28]を押します。

- 選んだ受信モードのチャンネルメモリーが登録されていないときは、「ポポ」と鳴り、[NULL!]が約1秒間表示されます。

モードスキャンでバンクスキャンする

1 スキャンしたいバンクを選ぶ

最大4つのバンクが指定できます。

2 FUNCボタン^[7]を押す

3 数字キー(8)^[19]を押す

選ばれている受信モードが点滅します。

4 受信モードを選ぶ

DIALツマミ^[8]や▲→キー^[23]、▼←キー^[24]で選びます。

5 ENTキー^[26]を押す

スキャンが始まります。

モードスキャンでセレクトバンクスキャンする

1 小数点キー(.)^[22]を押す

2 FUNCボタン^[7]を押す

3 数字キー(8)^[19]を押す

選ばれている受信モードが点滅します。

4 受信モードを選ぶ

DIALツマミ^[8]や▲→キー^[23]、▼←キー^[24]で選びます。

5 ENTキー^[26]を押す

バンクの確認表示になります。セレクトバンクスキャンの手順3(40ページ)からの操作を行います。

プログラムスキャン

連続スキャンやバンクスキャン、セレクトバンクスキャンを行うときに、指定したチャンネルメモリーのためのスキャンを行うことができます。

プログラムスキャンさせるチャンネルメモリーを指定する(プログラム登録)

- 1 指定したいチャンネルメモリーを呼び出す
チャンネルメモリーリードで呼び出します。
- 2 FUNCボタン $\boxed{7}$ を押す
- 3 数字キー(6) $\boxed{17}$ を押す

“ピピッ”と鳴り、プログラムスキャンに指定され、[PGM]が点灯します。



指定を削除するときは、プログラムスキャンで呼び出し、手順2.3を行います。

- 1つのバンクに最大10チャンネルまで指定することができます。それ以上指定しようとするとき、“ポポ”と鳴り、[FULL!]が約1秒間表示されます。
- スキャンパスを登録したチャンネルメモリーを指定することができます。
- プライオリティチャンネルを指定することはできません。

プログラムスキャンで連続スキャンする

- 1 FUNCボタン $\boxed{7}$ を押す
- 2 数字キー(9) $\boxed{20}$ を押す

スキャンが始まり、[PGM]が点滅します。

解除するときは、SCANキー $\boxed{30}$ またはMRキー $\boxed{28}$ を押します。

プログラムスキャンでバンクスキャンする

- 1 スキャンしたいバンクを選ぶ
最大4つのバンクが指定できます。
- 2 FUNCボタン $\boxed{7}$ を押す
- 3 数字キー(9) $\boxed{20}$ を押す
スキャンが始まり、[PGM]が点滅します。

プログラムスキャンでセレクトバンクスキャンする

- 1 小数点キー(.) $\boxed{22}$ を押す
 - 2 FUNCボタン $\boxed{7}$ を押す
 - 3 数字キー(9) $\boxed{20}$ を押す
バンクの確認表示になります。セレクトバンクスキャンの手順3(40ページ)からの操作を行います。
- プログラム登録されていないバンクを選ぶこともできますが、選んだすべてのバンクにプログラム登録がないときは、“ポポ”と鳴り、[NULL!]が約1秒間表示されます。

プライオリティ

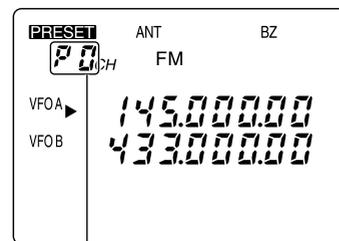
次ページに続く➡

VFOモードや、各種のサーチ、スキャン、チャンネルメモリーリードで受信中に、あらかじめプライオリティチャンネルに指定したチャンネル(チャンネル番号の1000~1009に登録された最大10チャンネル)を約5秒間隔で連続スキャンします。

・プライオリティスキャンには、2つの方法があります。

プライオリティチャンネルに登録する

- 1 登録したい周波数を受信する
- 2 チャンネル番号を入力する
数字キーを押して、その周波数に1000~1009までの間で番号を入力します。
- 3 FUNCボタン $\boxed{7}$ を押す
- 4 MRキー $\boxed{28}$ を押す
“ピピッ”と鳴り、登録したチャンネル番号が約1秒間表示されます。プライオリティチャンネルは最大10チャンネルまで登録できます。



チャンネル番号	表示
1000CH	P0
1001CH	P1
1002CH	P2
}	
1008CH	P8
1009CH	P9

登録を削除するときは、チャンネルメモリーリードで呼び出し、手順3、4を行います。

数字キーを使ってプライオリティスキャンする

数字キーを使ってのプライオリティスキャンでは最大4チャンネルを指定することができます。

- 1 指定したいチャンネル番号を入力する
数字キーを押して、チャンネル番号(1000~1009)を入力します。

数字キー	指定されるチャンネル番号
0	1000CH
1	1001CH
2	1002CH
}	}
8	1008CH
9	1009CH

- 入力した順番にかかわらず番号の小さいチャンネル番号からスキャンされます。また、同じチャンネルを2回以上設定することもできます。
- チャンネル番号の入力を省略することもできます。そのときは最後に登録されたプライオリティチャンネルをプライオリティスキャンします。

- 2 FUNCボタン $\boxed{7}$ を押す

- 3 SRCHキー $\boxed{31}$ を押す

[PRI]が点灯し、プライオリティスキャンが始まります。

解除するときは、手順2、3を行います。

- プライオリティチャンネルの登録がない場合でも、チャンネル番号を指定することができますが、指定したすべてのチャンネル番号にプライオリティチャンネルが登録されていない場合は、“ポポ”と鳴り、[NULL!]が約1秒間表示されます。

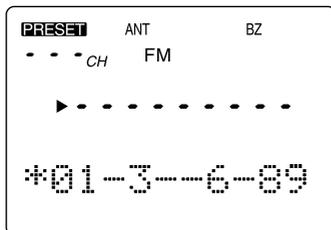
設定画面を使ってプライオリティスキャンする

1 小数点キー(.)**[22]**を押す

2 FUNCボタン**[7]**を押す

3 SRCHキー**[31]**を押す

すでに指定されているプライオリティチャンネル確認画面が表示されます。



- 指定されていないバンクは[-]で表示されます。
- 初期設定では、すべて[-]が表示されます。

4 ENTキー**[26]**を押す

プライオリティチャンネルの情報が表示されます。



- 1行目: バンク区分とバンク名
- 2行目: チャンネル名

- 初めはプライオリティチャンネルの中の一番小さいチャンネル番号の情報が表示されます。
- プライオリティチャンネルに何も登録されていないときは、「ボボ」と鳴り、[NULL!]が約1秒間表示されます。

5 指定したいプライオリティチャンネルを選ぶ

DIALツマミ**[8]**や**▲→**キー**[23]**、**▼←**キー**[24]**で選びます。

6 MONIボタン**[3]**を押す

選んだプライオリティチャンネルが指定されます。

- プライオリティチャンネルの指定を削除する場合は、C/ACキー**[9]**を押します。
- 続けてほかのプライオリティチャンネルを指定する場合は手順4、5、6を繰り返します。

7 希望するすべてのプライオリティチャンネルの指定が終わったら、ENTキー**[26]**を押す

手順2のプライオリティチャンネル確認画面に戻ります。

8 指定したプライオリティチャンネルを確認したら、SRCHキー**[31]**を押す

[PRI]が点灯し、プライオリティスキャンが始まります。

解除するときは、FUNCボタン**[7]**を押したあと、SRCHキー**[31]**を押します。

[PRI]が消灯します。

- プライオリティチャンネルの指定を変更するときは、C/ACキー**[9]**を押します。
- プライオリティスキャンの方向を変更することはできません。

その他の

機能

サーチやスキャンの付加機能

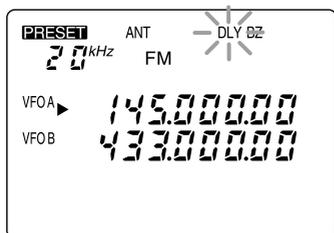
ディレイの切換え

サーチやスキャン中に電波が途切れて、再びサーチやスキャンを開始する時間を約2秒から約4秒に変更することができます。(初期設定は約2秒に設定されています)

1 FUNCボタン[7]を押す

2 数字キー(2)[13]を押す

[DLY]が点灯し、再び開始する時間が約4秒になります。



約2秒にするとときは、もう1度手順1、2を行います。

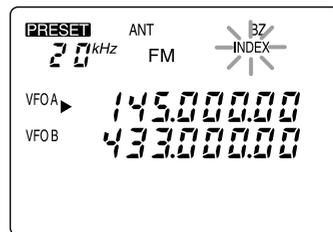
インデックス機能

サーチやスキャンの停止後、受信中であっても、約4秒後にサーチやスキャンを再開するように設定できます。

1 FUNCボタン[7]を押す

2 数字キー(3)[14]を押す

[INDEX]が点灯します。サーチやスキャンを行うと、インデックス機能がはたらきます。



解除するときは、もう1度手順1、2を行います。

• プライオリティスキャン中は、はたらきません。

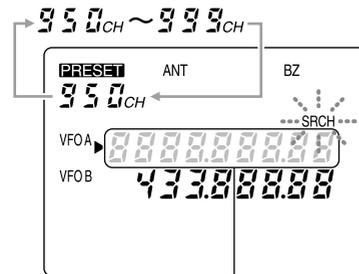
オートライト機能

サーチで受信した周波数を、チャンネルメモリに自動的に登録することができます。登録されたチャンネルメモリはjのバンク(チャンネル番号は、950~999)に自動的に最大50チャンネルまで登録されます。

1 FUNCボタン[7]を押す

2 小数点キー(.)[22]を押す

[SRCH]が点滅し、オートライトになります。



検索中

解除するときは、もう1度手順1、2を行います。

[SRCH]が消灯します。

3 SRCHキー[31]を押す

サーチが始まり、受信した周波数が、チャンネル番号950から順にチャンネルメモリに登録されていきます。

途中で解除するときは、SRCHキー[31]を押します。

- SRCHキー[31]を押すと、オートライトを開始する前にjのバンクの登録内容はすべて消去されます。
- 50チャンネルすべてに登録されると、「ピピッ」と鳴り、サーチが解除されます。
- サーチを解除すると、オートライトも解除されません。

10タイムス機能

VFOモードやサーチのマニュアル動作中に、一時的に周波数ステップを10倍にして、周波数を切り換えることができます。

1 FUNCボタン[7]を押す

2 DIALツマミ[8]を回す

一時的に周波数ステップが10倍になり、周波数が切り換わります。

解除するときは、FUNCボタン[7]を押します。

- プリセットモードで切り換えているときにプリセット区分をまたがった場合(プリセット情報に含まれる周波数区分、周波数ステップ、受信モード、シフト幅のいずれか1つでも変わった場合)は、新しいプリセット区分の周波数ステップが10倍になって動作します。
- DIALツマミ[8]を早く回しすぎると、正確に10倍でなくなることがあります。

例) 放送事業用/連絡用の周波数帯域(162.91MHz~169.99MHz)を受信しようとした場合

下端周波数	上端周波数	周波数ステップ(kHz)	受信モード	シフト幅	オフセット
162.91000MHz	169.99000MHz	20.00kHz	FM(N-FM)	-	○

VHFバンドのメッカともいえる170MHzまでの周波数帯域は、色々な業務などに使用されていますが、上表は、その内の放送業務用/連絡用周波数の割り当てが162.91MHz~169.99MHzにあり、その間を20kHz間隔で使用していることを示しています。

周波数ステップ

限られた電波資源を有効利用するために、各周波数帯では、その通信システムに応じたある一定の間隔で周波数を割り当てています。この間隔が周波数ステップです。

上例では20kHzとなっているので、使用されているのは162.91MHz、162.93MHz、162.95MHz……ということになります。

受信モード

音声や音楽などは、通信システムによってそれらを電波に乗せる方式が違います。

その方式(変調方式)を表しているのが受信モードで、受信周波数が合っているにもかかわらず、この受信モードが受信しようとするシステムに一致していないと、正常な受信ができません。

上例ではFM(N-FM)になっていますが、例えばTV/FM放送ではW-FMモードが、中波ラジオの周波数帯ではAMモードが使用されています。本機では、W-FM、FM(N-FM)、AM、N-AM、LSB、USB、CWモードから選択可能です。

シフト幅

通信システムによっては、円滑な相互連絡が可能になるように、2つの異なる周波数を交互に(システムによっては同時に)使用していることがあります。

この2つの周波数が、どれだけ、どの方向に離れているのかを示すのがシフト幅です。

例えば国際VHFマリンバンドの場合には、シフト幅が±4.6MHzとなっているので、現在受信している周波数が156.05MHz(船舶局側)だとすると、対になるのは160.65MHz

(海岸局側)ということになります。

オフセット

従来の機種で上例の周波数帯域を受信しようとした場合、周波数ステップを10kHzとしなければなりませんでしたが、これは受信しようとしている周波数が、周波数ステップで割り切れないことによるものでした。

このため、本来使用されていない周波数(上例では162.92MHz、162.94MHzなど)をどうしても通ることになるので、例えばサーチを行う場合には余計に時間がかかったり、これらの使用されていない周波数でのノイズなどで止まってしまうようなことが多々ありました。

そこで、このようなことがないように、周波数ステップで割り切れない周波数が使用されている帯域では、周波数ステップで割り切れる周波数から、ある周波数分だけずらすことを可能にしたのがオフセットです。

本機では、上例のように20kHzでは割り切れない周波数が使用されている帯域の場合には割り切れる周波数(上例では162.90MHz、162.92MHzなど)からオフセットすることによって、使用されている周波数だけを受信することを可能にしています。(上例では、10kHzのオフセットをしていることになります)

周波数(MHz)	本機 (オフセットあり) 周波数ステップ 20kHz	従来機種 (オフセットなし) 周波数ステップ 10kHz
162.91	○	○
162.92	×(飛び越す)	○(通る)
162.93	○	○
162.94	×(飛び越す)	○(通る)
162.95	○	○
169.97	○	○
169.98	×(飛び越す)	○(通る)
169.99	○	○

パラメーターの変更

本機にあらかじめ設定されているパラメーターの周波数ステップや、受信モード、デュープレックスのシフト幅、サーチバンドメモリーを変更することができます。特殊な電波を受信するためには、その電波に合わせてパラメーターの内容を変更します。

パラメーターの内容を変更すると、オフセットの周波数処理方法が変わることがあります。周波数処理方法が変わったことで、受信範囲以外になると変更前の状態に戻ります。そのとき、「ポポ」と鳴り、[*Off BAND!*]が約1秒間表示されます。

受信モードを変更する

VFOモードとサーチモード中に受信モードを変更することができます。

1 FUNCボタン[7]押す

2 STEPキー[29]を押す

現在の受信モードが点滅します。



3 受信モードを選ぶ

DIALツマミ[8]や▲→キー[23]、▼←キー[24]で選びます。

/-FM↔FM↔AM↔N-AM↔LSB↔USB↔C'

- 受信モードを切り換えると、周波数ステップも各受信モードに従って切り換わります。
- 選んだ受信モードがプリセットの受信モードと同じときは、[PRESET]が点滅します。このとき、▲→キー[23]または▼←キー[24]を1回押すかDIALツマミ[8]を1クリック回すと受信モードは変わらずに[PRESET]が消灯します。受信モードを変更せずに、受信モード以外の内容を変更することができます。

4 ENTキー[26]を押す

受信モードが点灯になり、受信モードが変更されます。

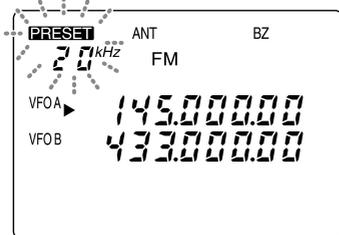
- 選んだ受信モードがプリセットと同じときは、[PRESET]が点灯します。
- 操作を途中でやめる場合は、C/ACキー[26]を押します。

周波数ステップを変更する

VFOモードとサーチモード中に周波数ステップを変更することができます。

1 STEPキー[29]を押す

現在の周波数ステップが点滅します。



2 周波数ステップを選ぶ

DIALツマミ[8]や▲→キー[23]、▼←キー[24]で選びます。

受信モードにより変更できる周波数ステップが異なります。

受信モード	選択可能な周波数ステップ
W-FM以外	50Hz、100Hz、200Hz、500Hz、1kHz、5kHz、6.25kHz、8kHz、9kHz、10kHz、12.5kHz、15kHz、20kHz、25kHz、30kHz、50kHz、100kHz、125kHz
W-FM	10kHz、12.5kHz、20kHz、25kHz、50kHz、100kHz、125kHz

• 選んだ周波数ステップがプリセットの周波数ステップと同じときは、[PRESET]が点滅します。このとき、▲→キー[23]または▼←キー[24]を1回押すかDIALツマミ[8]を1クリック回すと、周波数ステップは変わらずに[PRESET]が消灯します。周波数ステップを変更せずに、周波数ステップ以外の内容を変更することができます。

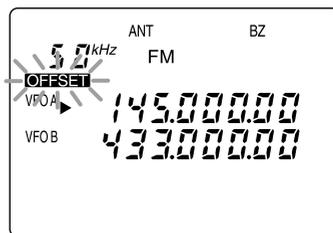
3 ENTキー[26]を押す

周波数ステップが点灯になり、周波数ステップが変更されます。

- 選んだ周波数ステップがプリセットと同じときは、[PRESET]が点灯し、プリセットと違うときは、[OFFSET]が点滅します。
- 操作を途中でやめる場合は、C/ACキー[28]を押します。

4 もう1度、ENTキー[26]を押す

[OFFSET]が点灯し、オフセットになります。



- オフセットを解除する場合は、C/ACキー[28]を押します。[OFFSET]が消灯し、オフセットが解除されます。

デュプレックスのシフト幅を変更する

VFOモードでデュプレックスのシフト幅を変更することができます。変更できるシフト幅は -999.99000MHz ~ +999.99000MHzです。

1 FUNCボタン[7]を1秒以上押す

[FUNC]が点滅します。

2 数字キー(5)[16]を押す

周波数表示部(上)に、現在のシフト幅が表示され、[DUP]が点滅します。



3 数字キーでシフト幅を入力する

- ENTキー[26]を押すと、VFOモードに戻ります。

4 ENTキー[26]を押す

- 入力されたシフト幅が正しくないときは、手順3の状態に戻ります。
- 1kHz桁の入力は自動的に切り捨てられます。

5 シフト幅の向きを選ぶ

DIALツマミ[8]や▲→キー[23]、▼←キー[24]で、プラスかマイナスを選びます。マイナスを選ぶと周波数表示部に[-]が点滅します。

6 ENTキー[26]を押す

“ピピッ”と鳴り、変更したシフト幅が約1秒間表示され、VFOモードになります。

- 操作を途中でやめる場合は、C/ACキー[28]を押します。

バンド内容を登録(変更)する

<サーチバンドメモリー>

VFOモード中に、サーチするバンド内容の登録や変更ができます。A~Jのバンドには、あらかじめ特定のバンド内容が登録されています。a~jのバンドには、すべて0.1~2039MHzの帯域が登録されています。また、バンド内容を変更できます。

1 FUNCボタン[7]を1秒以上押す

[FUNC]が点滅します。

2 SRCHキー[31]を押す

Aのバンドのバンド区分、バンド名、下限周波数、上限周波数が表示されます。



3 登録(変更)したいバンドを選ぶ

DIALツマミ[8]や▲→キー[23]、▼←キー[24]で選びます。

4 ENTキー[26]を押す

周波数表示部(上)に[▶]が点滅します。

- バンド内容の変更の場合は、そのバンドの下限周波数が表示されます。
- C/ACキー[25]を押すと、VFOモードに戻ります。
- 周波数を変更しない場合は、手順6に進みます。

5 数字キーで下限周波数を入力する

周波数表示部(上)に下限周波数が表示されます。

6 ENTキー[26]を押す

下限周波数が確定し、周波数表示部(下)に[▶]が点滅します。

- バンド内容の変更の場合は、そのバンドの上限周波数が表示されます。
- 周波数を変更しない場合は、手順8に進みます。

7 数字キーで上限周波数を入力する

周波数表示部(下)に上限周波数が表示されます。

8 ENTキー[26]を押す

入力した上限周波数と下限周波数が登録されます。

- 上限周波数と下限周波数を入力するときに、C/ACキー[25]を押すと、手順3に戻ります。
- 上限周波数が下限周波数より小さい場合は、[Error]が約1秒間表示され、手順5に戻ります。

9 プリセットの設定/解除を選ぶ

■ プリセットを設定する場合

ENTキー[26]を押す

[PRESET]が点灯し、プリセットが設定されます。

■ プリセットを解除する場合

C/ACキー[25]を押す

[PRESET]が消灯し、プリセットが解除されます。

受信モード、周波数ステップ、オフセットの設定/解除を選びます。



受信モードを選ぶ

「受信モードを変更する」(49ページ)の手順3、4を行います。



周波数ステップを選ぶ

周波数ステップとオフセットの設定/解除を選びます。

「周波数ステップを変更する」(50ページ)の手順2、3、4を行います。

10 バンド名を入力する

「バンド名の編集」(55ページ)の手順5、6を行います。

タイトル編集

オープニングメッセージ、バンド名、バンク名、チャンネル名には、タイトルをつけて表示させることができます。

オープニングメッセージの編集

1 FUNCボタン $\boxed{7}$ を押す

2 ENTキー $\boxed{26}$ を押す

編集メニュー画面が表示されます。



3 編集したい項目を選ぶ

▲→キー $\boxed{23}$ 、▼←キー $\boxed{24}$ で[Opening]を選びます。



•C/ACキー $\boxed{25}$ を押すと、VFOモードになります。

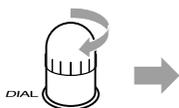
4 ENTキー $\boxed{26}$ を押す

オープニングメッセージの編集画面が表示されます。



5 編集する

▲→キー $\boxed{23}$ 、▼←キー $\boxed{24}$ で編集する文字位置を選び、DIALツマミ $\boxed{8}$ で入力する文字を選びます。



A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[¥]	^	_	
a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	{ }	→	←	
。	「	」	、	・	ヲ	アイウエオ	カキクケコ	サシスセソ						
一	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ
タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
マ	ミ	ム	モ	ヤ	ユ	ヨ	ラ	リ	ル	ロ	ワ	ン	”	°
λ	μ	π	Σ	Ω	~	*	◀	▶	□	■	●	○	×	÷
@	!	”	#	\$	%	&	'	()	*	+	.	-	/	
∅	1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	<	=	>	?



6 ENTキー $\boxed{26}$ を押す

•C/ACキー $\boxed{25}$ を押すと、手順3に戻ります。

バンド名の編集

1 FUNCボタン $\boxed{7}$ を押す

2 ENTキー $\boxed{26}$ を押す

編集メニュー画面が表示されます。

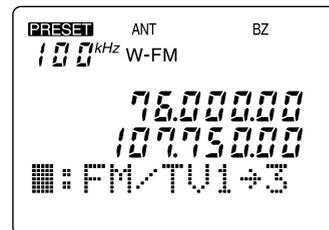
3 編集したい項目を選ぶ

DIALツマミ $\boxed{8}$ または▲→キー $\boxed{23}$ 、▼←キー $\boxed{24}$ で[Band]を選びます。

•C/ACキー $\boxed{25}$ を押すと、VFOモードになります。

4 ENTキー $\boxed{26}$ を押す

バンドタイトル編集画面が表示されます。



5 編集したいバンドを選ぶ

DIALツマミ $\boxed{8}$ または▲→キー $\boxed{23}$ 、▼←キー $\boxed{24}$ でバンドを選びます。

6 ENTキー $\boxed{26}$ を押す

バンド名の編集画面が表示されます。

7 編集する

▲→キー $\boxed{23}$ 、▼←キー $\boxed{24}$ で編集する文字位置を選び、DIALツマミ $\boxed{8}$ で入力する文字を選びます。(「オープニングメッセージの編集-手順5」54ページをご覧ください)

8 ENTキー $\boxed{26}$ を押す

•C/ACキー $\boxed{25}$ を押すと、手順3に戻ります。

バンク名/チャンネル名の編集

1 FUNCボタン $\boxed{7}$ を押す

2 ENTキー $\boxed{26}$ を押す

編集メニュー画面が表示されます。

3 編集したい項目を選ぶ

DIALツマミ $\boxed{8}$ または▲→キー $\boxed{23}$ 、▼←キー $\boxed{24}$ で[Bank]を選びます。

•C/ACキー $\boxed{25}$ を押すと、VFOモードになります。

4 ENTキー $\boxed{26}$ を押す

バンク編集画面が表示されます。

5 編集したいバンク区分を選ぶ

DIALツマミ $\boxed{8}$ でバンクを選びます。

6 ENTキー $\boxed{26}$ を押す

7 編集したいバンク名またはチャンネル名を選ぶ

バンク名：▲→キー $\boxed{23}$ を押す
チャンネル名：DIALツマミ $\boxed{8}$ でチャンネルを選び、▼←キー $\boxed{24}$ を押す

8 編集する

▲→キー $\boxed{23}$ 、▼←キー $\boxed{24}$ で編集する文字位置を選び、DIALツマミ $\boxed{8}$ で入力する文字を選びます。(「オープニングメッセージの編集-手順5」54ページをご覧ください)

9 ENTキー $\boxed{26}$ を押す

•C/ACキー $\boxed{25}$ を押すと、手順3に戻ります。

モニター機能

受信中の電波が弱く、途切れ途切りに聞こえるときなどに、聞き取りやすくすることができます。

MONIボタン③を押す

押している間、モニター機能がはたらき聞き取りやすくなります。
放すと元の状態に戻ります。

- 各種サーチ/スキャン中にMONIボタン③を押すと、押している間サーチ/スキャンが停止します。
- スケルチ調整中は、MONIボタン③を押さないでください。
- マーカーモードでは、違いはたらきをします。(24ページ)

アッテネーター機能

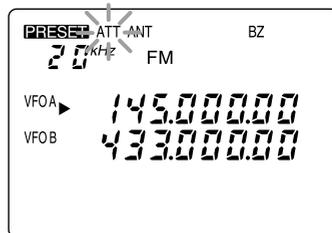
TV放送局などの強い電波の影響で、混信や雑音といった障害を受けるときに、聞き取りやすくすることができます。

1 FUNCボタン⑦を押す

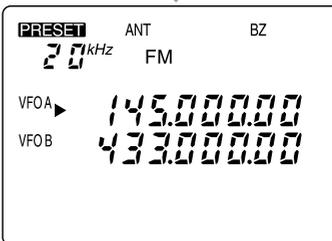
2 数字キー(1)⑫を押す

[ATT]が点灯し、アッテネーターが設定されます。

解除するときには、もう1度手順1、2を行います。



[ATT]表示が点灯:設定



[ATT]表示が消灯:解除

- アッテネーターを設定したときの減衰量は約15dB(108MHzにて)です。
- アッテネーターが設定したままでは、弱い電波の受信ができなくなります。必要な場合のみ設定してください。
- バンドサーチやセレクトバンドサーチで受信中のチャンネルにアッテネーターの設定を行うこともできます。
- 各スキャンモード中にアッテネーターの設定を行うと、そのチャンネルメモリーの内容は、アッテネーターに設定された状態で再登録されます。

キーロック機能

誤動作などを防止するため、キーやボタン、ツマミの操作を無効にすることができます。キーロックは、部分ロックと全ロックの2通りの使いかたができます。ロック中でも、下表のキーは操作できます。

	部分ロック	全ロック
PWRキー	○	○
DIALツマミ	○	×
FUNCボタン	○	○
LAMPボタン	○	×
MONIボタン	○	×
LOCKボタン	○	○
C/ACキー	○	×
その他のキー	×	×

部分ロックにする

LOCKボタン④を押す



[f]が点灯し、部分ロックになります。

全ロックにする

LOCKボタン④を1秒以上押す

[f]が点灯し、全ロックになります。

解除するとき(部分ロック、全ロック)は、FUNCボタン⑦を押したあと、LOCKボタン④を押します。

[f]が消灯します。

ビープ音の切換え

キー操作をしたときに、確認のための操作音(ビープ音)が鳴ります。

操作が正しいとき：“ピピツ”
操作が正しくないとき：“ポポ”

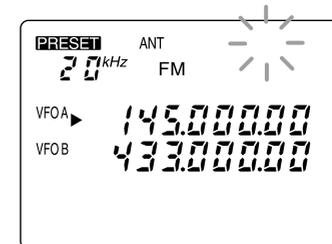
初期設定は鳴るように設定されていますが、鳴らなくさせることができます。

1 FUNCボタン⑦を1秒以上押す

[FUNC]が点滅します。

2 数字キー(2)⑬を押す

[BZ]が消灯し、操作音が鳴らなくなります。



ビープ音を鳴らすときは、もう1度手順1、2を行います。

ランプ機能

ランプが点灯し、ディスプレイやキーを明るく照らすことができます。
3通りの使いかたができます。

LAMPボタン²を1度押したとき

約5秒間ランプが点灯します。

LAMPボタン²を1秒以上押したとき

[☆]が点滅し、ランプが点灯したままの状態に設定されます。

FUNCボタン⁷を1秒以上押したあと、
LAMPボタン²を押したとき

[☆]が点灯し、キーなどを操作するたびに約5秒間ランプが点灯する状態に設定されます。

•VOLツマミ⁹とSQLツマミ¹⁰の操作をしても、ランプは点灯しません。

解除するときは、FUNCボタン⁷を押したあと、
LAMPボタン²を押します。
ランプが消灯し、[☆]が消灯します。

AMアンテナの切換え

内蔵のAMアンテナを使用する、使用しないを切り換えることができます。
初期設定は、AMアンテナを使用するように設定されています。市販の外部アンテナを使用するときなどに、切り換えることができます。
AMアンテナの有効周波数は522kHz～1629kHzです。

1 FUNCボタン⁷を1秒以上押す

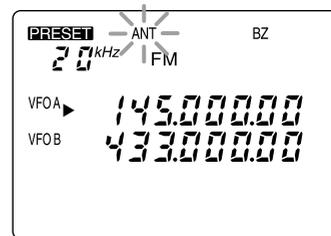
[FUNC]が点滅します。

2 数字キー(1)¹²を押す

[ANT]が消灯し、内蔵のAMアンテナを使用しないように設定されます。



[ANT]表示が消灯:
使用しない



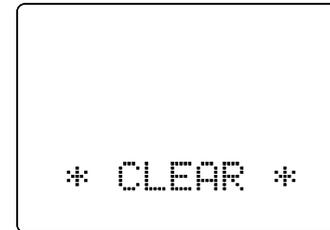
[ANT]表示が点灯:
使用する

再度使用するときは、もう1度手順1、2を行います。

メモリーオールクリア

メモリーをすべて消去して、初期設定の状態(「初期設定について」60ページ参照)に戻すことができます。

C/ACキー²⁵とENTキー²⁶を押しながら、
PWRボタン¹を押して電源を入れる



[* CLEAR *]が表示され、VFOモードになります。

初期設定

MVT-9000の初期設定は、次のように設定されています。

■各パラメーター

項目	初期設定
受信モード	VFOモード*
プリセット	VFO A、VFO B:設定
周波数ステップ (各受信型式に割り振られているもの)	W-FM: 100kHz FM: 20kHz AM/N-AM: 50kHz LSB/USB/CW: 50Hz
デュプレックスモード	VFO A、VFO B:解除
アッテネーター機能	VFO A、VFO B:解除
AMアンテナ	使用
ビーブ音	鳴る
プライオリティスキャン	解除
ディレイ	2秒
インデックス機能	解除
オートライト機能	解除
キーロック機能	解除
ランプ機能	解除

項目	初期設定
チャンネルメモリー	すべて登録なし
サーチパスメモリー	すべて登録なし
プライオリティ チャンネルメモリー	すべて登録なし
オープニング メッセージ	*YUPITERU* *MVT-9000*
セレクトバンドサーチ の登録	A~J:登録 a~j:未登録
セレクトバンドスキャン の登録	すべて未登録
プライオリティスキャン の登録	すべて未登録

*VFO A=145.00000MHz
VFO B=433.00000MHz
VFO Aがアクティブ

■サーチバンド初期設定

区分	下限周波数(MHz)	上限周波数(MHz)	PRESET	名称(9文字)
A	76.00000	107.75000	ON	FM/TV1~3
B	118.00000	141.97500	ON	VHF Air
C	144.00005	145.98000	ON	2mハムバンド
D	146.00000	155.97500	ON	カクシュギョウム
E	156.00000	162.02500	ON	VHFマリン
F	175.75000	221.75000	ON	TV4~12ch
G	430.00000	440.00000	ON	70cmアマチュア
H	440.37500	451.50000	ON	タクシームセン
I	850.01250	859.98750	ON	MCA/JSMR
J	903.03750	904.98750	ON	パーソナルムセン
a	0.10000	2039.00000	ON	登録なし
b	0.10000	2039.00000	ON	登録なし
c	0.10000	2039.00000	ON	登録なし
d	0.10000	2039.00000	ON	登録なし
e	0.10000	2039.00000	ON	登録なし
f	0.10000	2039.00000	ON	登録なし
g	0.10000	2039.00000	ON	登録なし
h	0.10000	2039.00000	ON	登録なし
i	0.10000	2039.00000	ON	登録なし
j	0.10000	2039.00000	ON	登録なし

知って
おきたいこと

故障かな？と思ったら

修理をご依頼になる前に、もう1度次のことをご確認ください。それでも異常や故障と思われるときは、お買い上げの販売店、または最寄りの弊社営業所・サービス部(添付の一覧表をご参照いただけます)にご相談ください。

症状	原因	処置
ディスプレイに何も表示されない	電池が消耗している	充電するか、電池を交換する(15ページ参照)
ときどきPCHが表示される	プライオリティ機能がはたらいている	プライオリティ機能を解除する(43ページ参照)
P表示が点滅している	サーチパスメモリーを呼び出している	マニュアルモードにする(31ページ参照)
受信が途切れる	スケルチ調整が誤っている	スケルチ調整を正しく行う(18ページ参照)
	交信局の電波が弱い	MONIボタンを押す(56ページ参照)
	アッテネーター機能がはたらいている	アッテネーター機能を解除する(56ページ参照)
正常な音声で受信できない	誤った受信モードを選択している	受信モードを正しく選択する(49ページ参照)
キーを押しても動作しない	キーロック機能がONになっている	キーロック機能を解除する(57ページ参照)
周波数を入力できない	受信周波数範囲でない周波数を入力している	受信周波数範囲内の周波数を入力する
サーチができない	スケルチ調整が誤っている	スケルチ調整を正しく行う(18ページ参照)
	MONIボタンを押している	MONIボタンを放す(56ページ参照)
スキャンができない	スケルチ調整が誤っている	スケルチ調整を正しく行う(18ページ参照)
	MONIボタンを押している	MONIボタンを放す(56ページ参照)
	すべてのチャンネルメモリーがサーチパスメモリーされている	サーチパスメモリーを削除する(32ページ参照)
	すべてのチャンネルメモリーに何も登録されていない	チャンネルメモリーに登録する(34ページ参照)
充電できない	シガープラグのヒューズが切れている	ヒューズを交換する(15ページ参照)

アフターサービスについて

■保証書(別に添付しています)

保証書は、必ず「販売店名・お買い上げ年月日」などの記入をお確かめのうえ、販売店からお受け取りいただき、保証内容をよくお確かめのあと、大切に保管してください。

■保証期間

お買い上げの日から1年間です。

■対象部品

機器本体(消耗部品を除く)

■修理を依頼される時

「故障かな？と思ったら」の点検をしていただいても、なお異常があるときは

●保証期間中のとき

恐れ入りますが、お買い上げの販売店まで保証書を添えて製品をご持参ください。保証書の規定に従って修理いたします。

●保証期間が過ぎているとき

お買い上げの販売店にまずご相談ください。お客様のご要望により有料修理いたします。なお、故障状況は、なるべく詳しくご連絡ください。

■アフターサービスなどについてご不明な点は

お買い上げの販売店または、最寄りの弊社営業所・サービス部(添付の一覧表をご参照いただけます)にお問い合わせください。

仕様

受信周波数範囲(MHz)	: 0.5310~2039.00000MHz
受信モード	: FM, W-FM, N-AM, AM, LSB, USB, CW
周波数ステップ*(Hz)	: 50、100、200、500、1k、5k、6.25k、8k、9k、10k、12.5k、15k、20k、25k、30k、50k、100k、125k
受信感度	2.0MHz~30MHz未満 AM : S/N 10dB時2.5 μ V以下 SSB : S/N 10dB時1.0 μ V以下 30.0MHz~470.0MHz未満 FM : SINAD 12dB時0.5 μ V以下 W-FM : SINAD 12dB時1.0 μ V以下 AM : S/N 10dB時1.0 μ V以下 SSB : S/N 10dB時0.5 μ V以下 470.0MHz~830.0MHz未満 W-FM : SINAD 12dB時1.5 μ V以下 470.0MHz~1000.0MHz未満 FM : SINAD 12dB時0.75 μ V以下 1000.0MHz~1300.0MHz未満 FM : SINAD 12dB時1.0 μ V以下 1.30GHz~2.039GHz FM : SINAD 12dB時2.0 μ V以下
チャンネルメモリー数	: 1000ch
サーチバスマモリー数	: 500ch
プライオリティチャンネルメモリー数	: 10ch
バンクメモリー数	: 20BANK
チャンネル数/1バンク	: 50ch/BANK
プログラムチャンネルメモリー数	: 10ch/BANK
バンドメモリー数	: 20BAND
サーチスピード	: 30STEP/sec
スキャンスピード	: 30ch/sec
アンテナインピーダンス/型式	: 50 Ω /BNC
電源	: 4.8V(ニッカド電池 1.2V \times 4本) 外部電源(ACアダプター: AC100V/カーバッテリー: DC12V)
低周波出力(4.8V時)	: 100mW以上(8 Ω /THD10%)
消費電流(4.8V時)	: 最大出力時 220mA(標準) 待ち受け時 155mA(標準)
動作保証温度範囲	: 0 $^{\circ}$ C~50 $^{\circ}$ C (ACアダプター 0 $^{\circ}$ C~40 $^{\circ}$ C)
外形寸法	: 66.0(W) \times 155.0(H) \times 40.0(D)mm (突起物は含まず)
重量	: 約410g(付属アンテナ、電池含む)
別売オプション	: ソフトケース (OP-90)

* 受信モードによって、選択可能なステップが限られます。

※製品改良のため、仕様および外観の一部を予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

主な無線局の受信モードと周波数ステップ

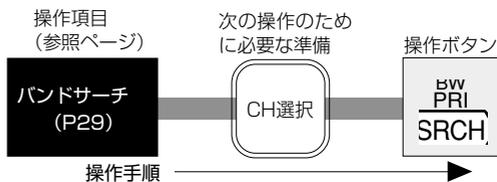
本機には下表に示す主な無線局のほかに、すべての受信周波数帯で最も活用されていると予測される受信モード、周波数ステップなどが、あらかじめ設定されています。

主な無線局	周波数の目安(MHz)	受信モード	周波数ステップ(kHz)	シフト幅(MHz)	オフセット
中波放送	0.522 ~ 1.629	AM	9.00	—	—
短波放送	3.9 ~ 3.999 4.438 ~ 4.627 4.75 ~ 5.099 5.9 ~ 6.199 7.10005 ~ 7.519 9.165 ~ 10.004 11.575 ~ 12.169 13.41 ~ 13.799 15.05 ~ 16.004 17.5 ~ 17.9 21.46 ~ 21.899 25.55 ~ 26.099	AM	1.00	—	—
船舶無線	35.536 ~ 35.992 39.530 ~ 39.992	AM	8.00	\pm 4.0	—
アマチュア無線(28MHz帯)	28.0 ~ 29.7	CW/USB/N-FM	0.05/10.00	\pm 0.1*	—
アマチュア無線(50MHz帯)	50.0 ~ 54.0	CW/USB/N-FM	0.05/20.00	—	—
FM放送	76.0 ~ 90.0	W-FM	100.00	—	—
テレビ音声(1-3CH)	90.05 ~ 107.95	W-FM	100.00	—	○
航空無線(VHF)	108.0 ~ 135.975 138.0 ~ 141.975	AM	25.00	—	—
アマチュア無線(144MHz帯)	144.00005 ~ 145.98	CW/USB/N-FM	0.05/20.00	—	—
国際VHFマリンバンド	156 ~ 157.425 160.6 ~ 162.025	N-FM	25.00	\pm 4.6	—
テレビ音声(4-12CH)	170.05 ~ 224.95	W-FM	100.00	—	○
航空無線(UHF)	225.0 ~ 262.0	AM	100.00	—	—
特定小電力無線電話(復信/半復信)	421.5625 ~ 421.9125 440.0125 ~ 440.3625	N-FM	12.50	\pm 18.45	—
アマチュア無線(430MHz帯)	430 ~ 440	CW/USB/N-FM	0.05/20.00	\pm 5.0*	—
タクシー無線	450.25 ~ 451.5 458.25 ~ 459.5	N-FM	12.50	\pm 8.0	—
新タクシー無線	453.3 ~ 453.3375 467.8 ~ 467.8375	N-FM	12.50	\pm 14.5	—
テレビ音声(UHF)	470.05 ~ 769.95	W-FM	100.00	—	○
特定小電力ラジオマイク	797.125 ~ 809.875	W-FM	125.00	—	—
MCA/JSMR	834.0 ~ 837.99375 889.0 ~ 892.99375	N-FM	6.25	\pm 55.0	—
地域防災行政無線	846.0 ~ 847.175 848.825 ~ 849.975	N-FM	25.00	—	—
地域防災行政MCA	850.0 ~ 859.99375 901.2 ~ 902.8	N-FM	25.00	\pm 54.0	—
パーソナル無線	902.8125 ~ 904.9875	N-FM	12.50	—	—
アマチュア無線(1.2GHz)	1260.0 ~ 1300.0	N-FM	20.00	\pm 20.0*	—

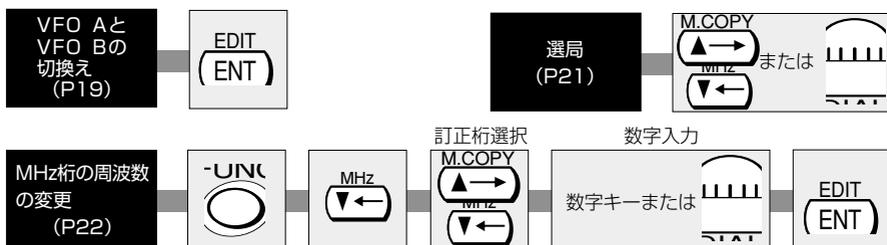
* レビーター局用周波数受信時のみ

操作早見表の見方

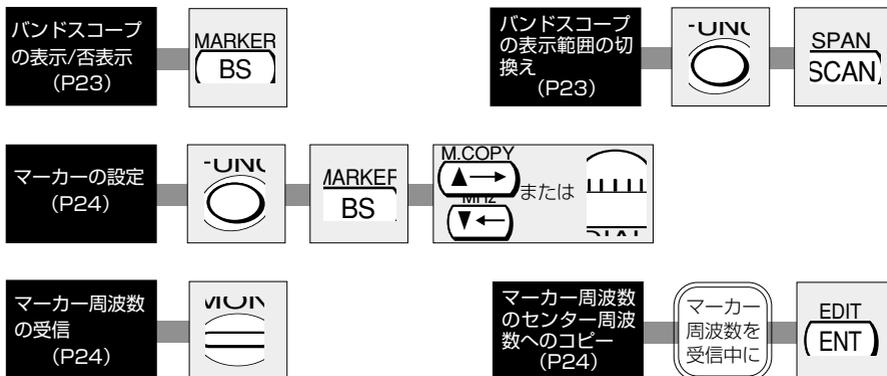
この操作早見表は、左側の操作項目から、右方向へ順に操作してください。操作の詳細については、参照ページをご覧ください。



VFOモード



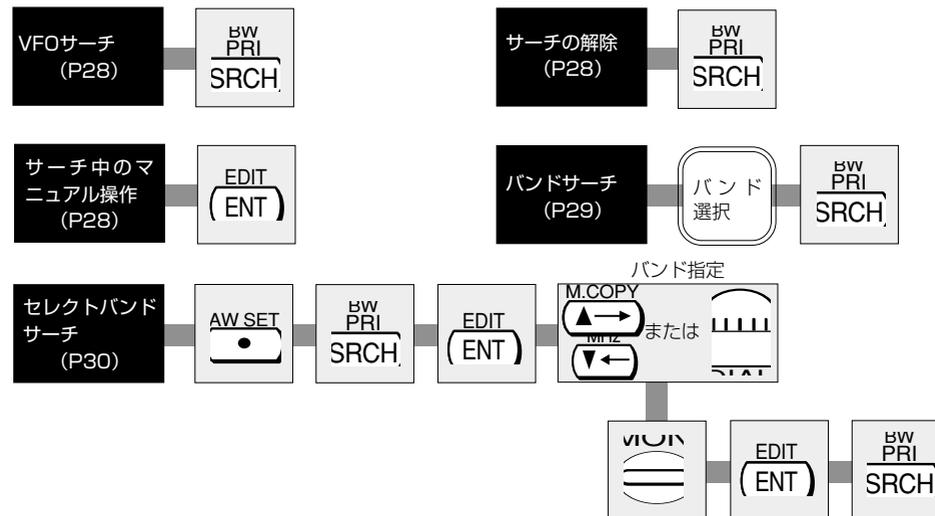
バンドスコープ/マーカ機能



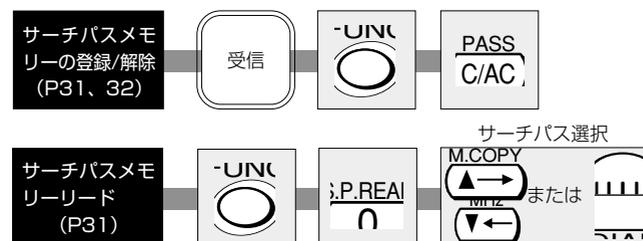
デュープレックス受信



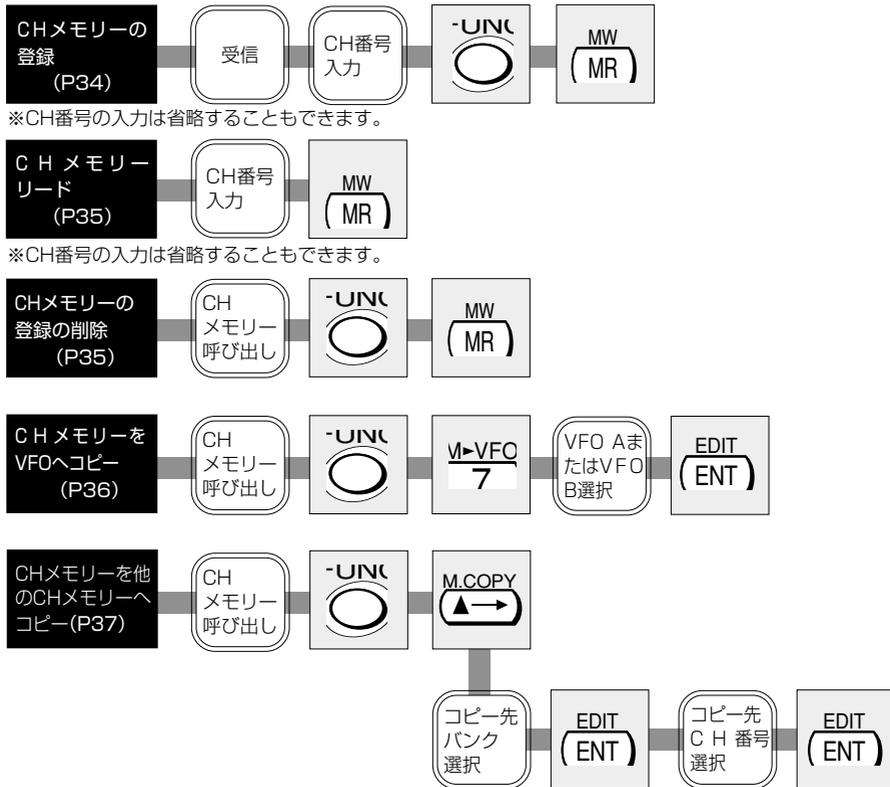
サーチ



サーチパスメモリー



チャンネルメモリー



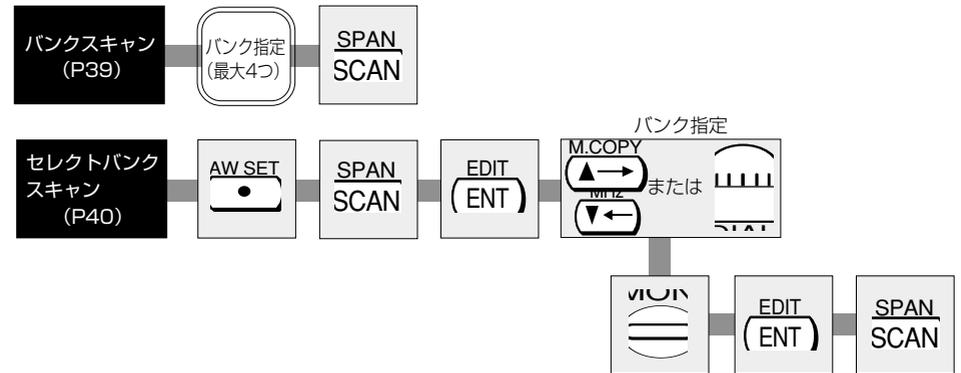
スキャンパス



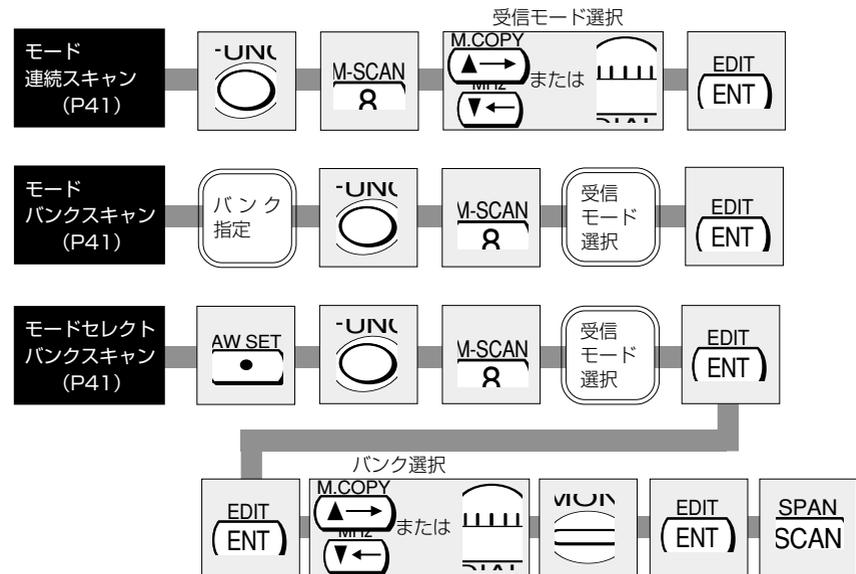
スキャン



バンクスキャン

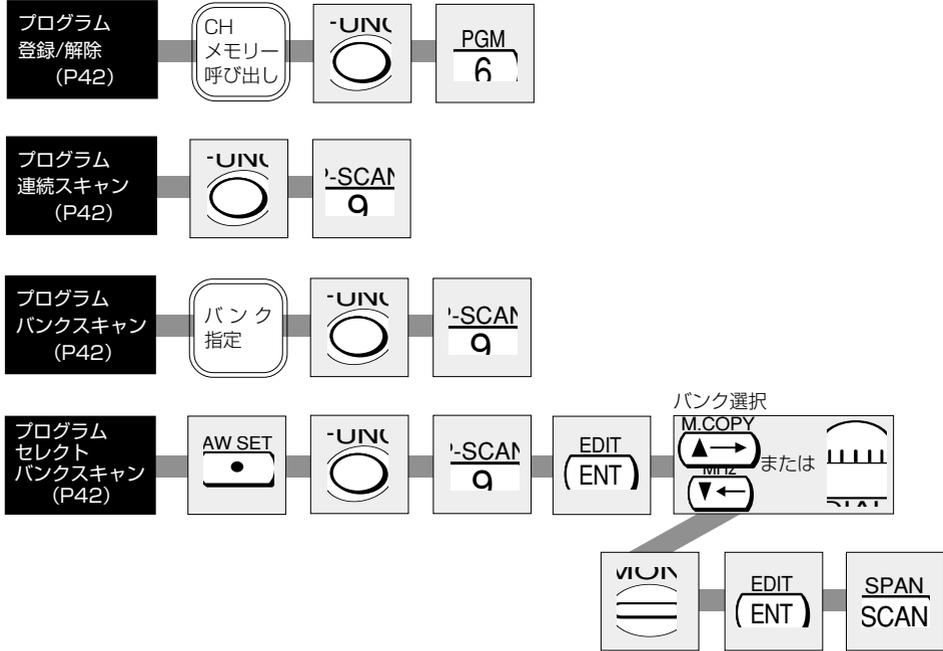


モードスキャン

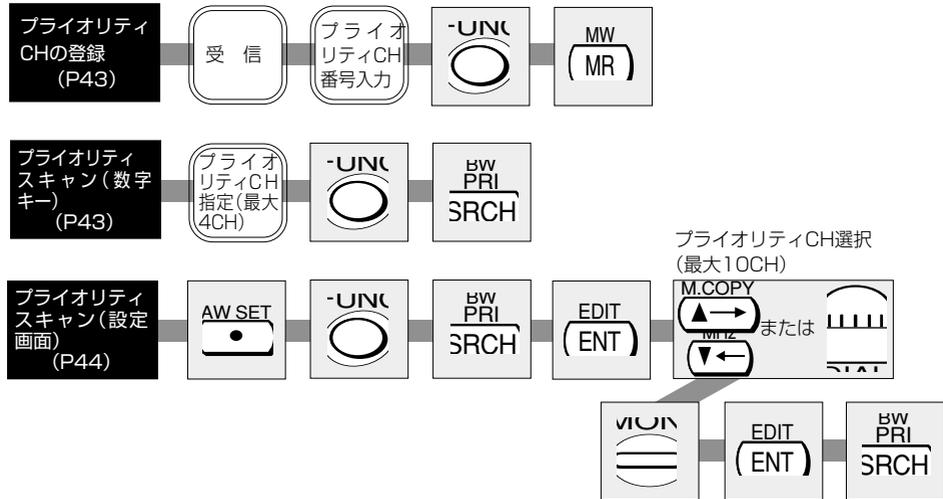


スキャン

プログラムスキャン

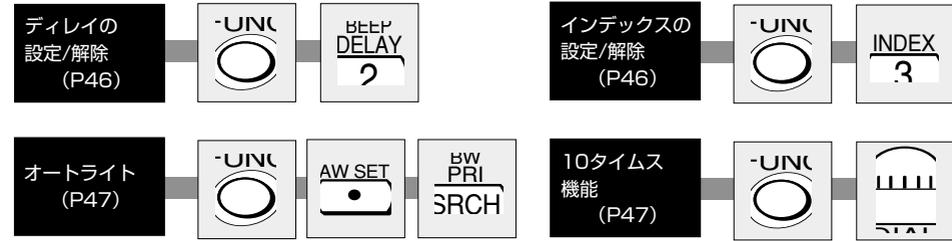


プライオリティスキャン

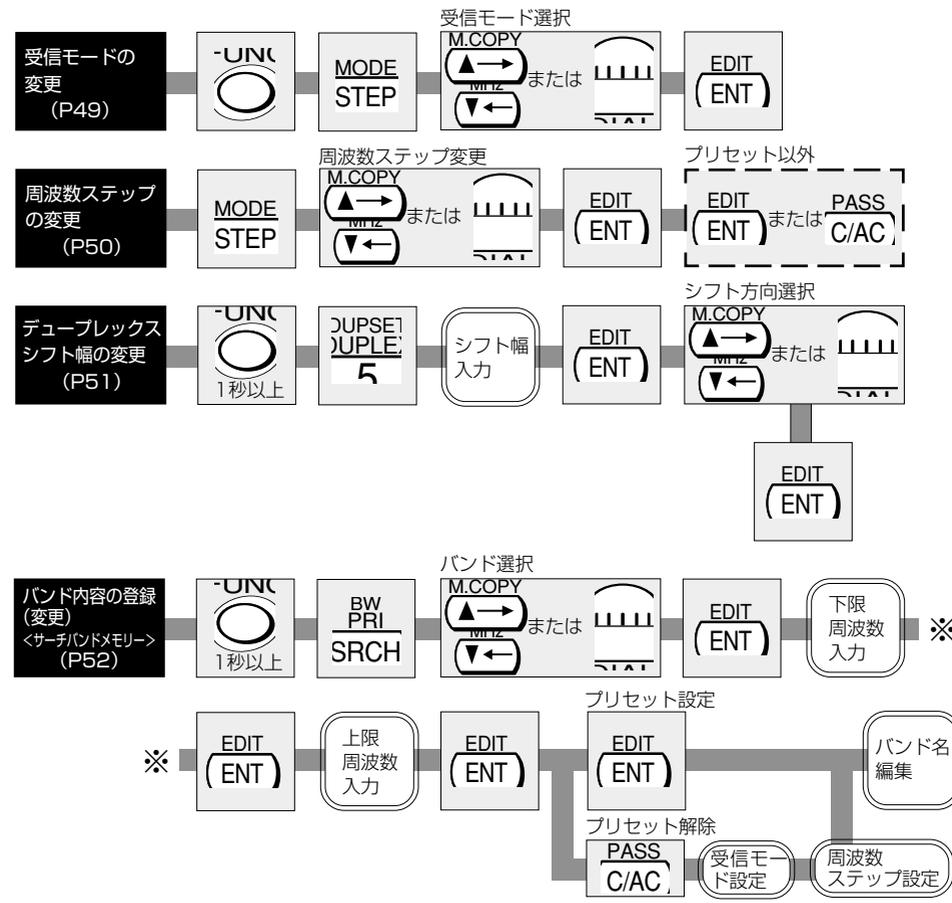


その他の機能

サーチ/スキャン付加機能



特殊な電波を受信するには

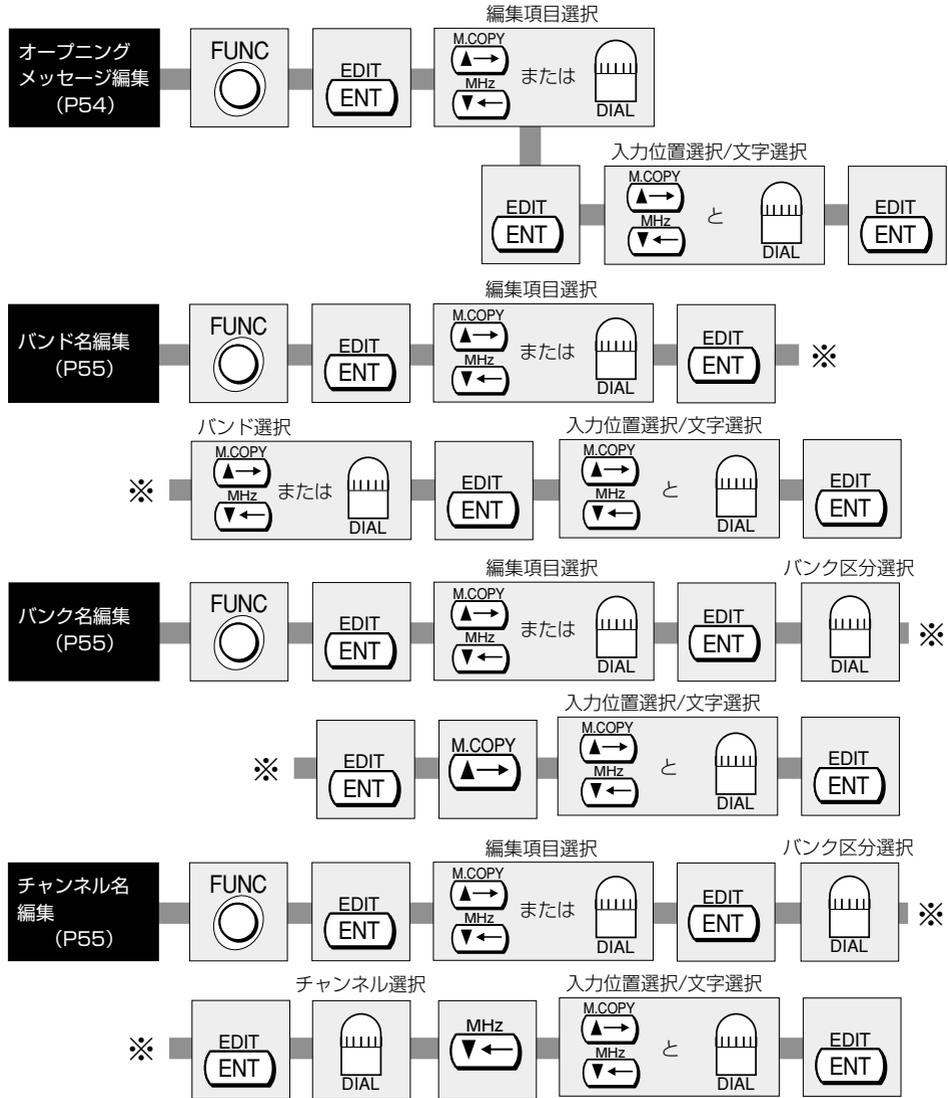


知っておきたいこと

知っておきたいこと

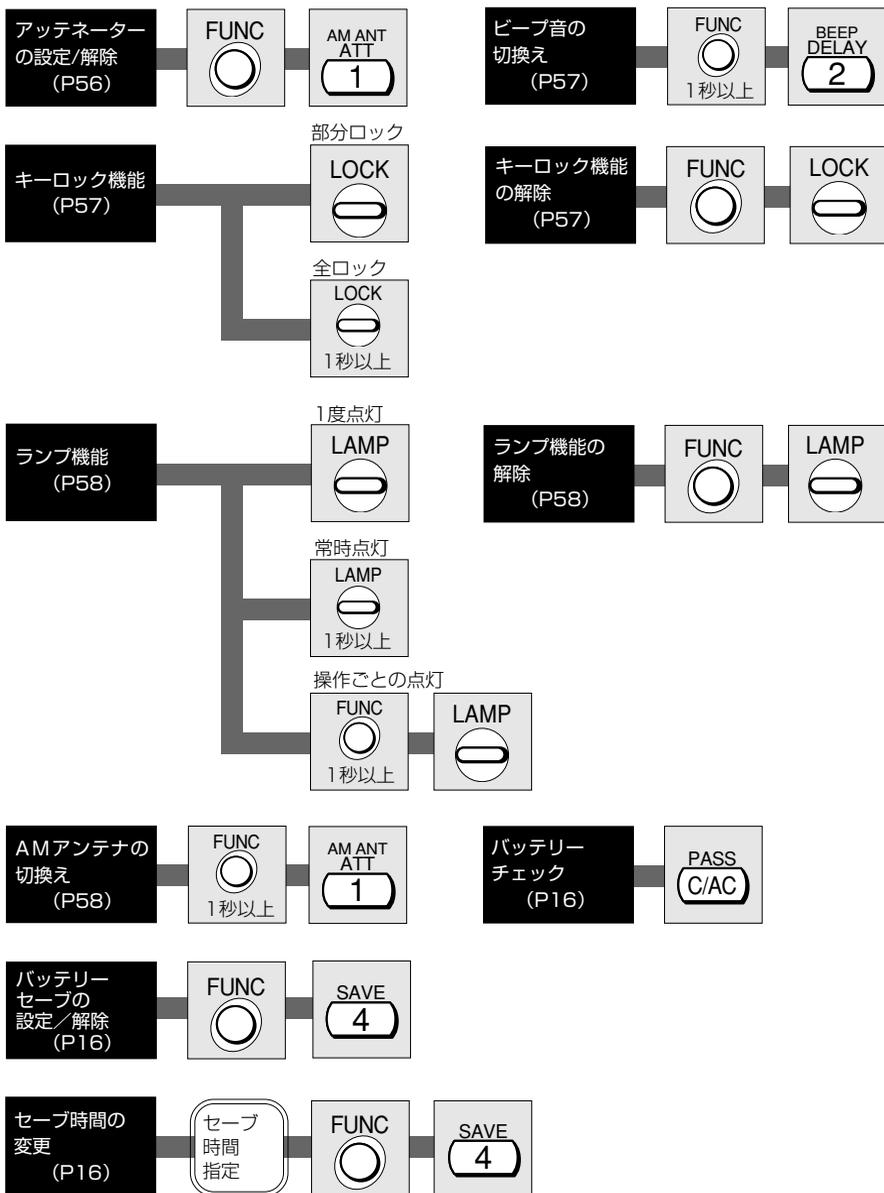
その他の機能

タイトル編集



知
っ
て
お
き
た
い
こ
と

便利な機能



知
つ
て
お
き
た
い
こ
と